

令和7年度独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」

「人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業」

自由記述回答内容一覧

1. 地域診断アンケート
2. 地域診断アンケート【ケアマネジャー抽出版】
3. 各連携団体で実施した研修会参加者アンケート

地域診断アンケート 自由記述一覧

◆ご回答いただくご自身についてお答えください。

・職種

「その他」の内容

事務員・事務（17名）	民生委員（7名）
公務員（9名）	介護職員（8名）
相談支援専門員（6名）	訪問介護（4名）
民生児童委員（4名）	福祉活動専門員（2名）
無職（2名）	介護職（無資格）
福祉施設 所長	自立相談支援員
診療放射線技師	生活支援員
市社協事務職員	精神保健福祉士・相談支援専門員
保育士 社会福祉主事	CSW
看護助手	公民館職員
社会福祉協議会職員	相談支援員
精神保健福祉士	歯科
放射線技師	介護相談員
社会福祉主事	生活支援員（社会福祉協議会）
福祉関係	SC
社協 SC	答えたくない

・ご自身はペットを飼育していますか？はいの場合、飼育している動物の種類を教えてください。

「その他」の内容

▼哺乳類

ウサギ（4名）	モルモット（3名）	モモンガ（2名）	フェレット（2名）
デグー	ヤマネ		

▼魚類

メダカ（8名）	金魚（4名）	川魚	鯉
熱帯魚			

▼爬虫類

トカゲ（4名）	亀（3名）	スッポン	イグアナ
---------	-------	------	------

▼鳥類

インコ（4名）	鳥
---------	---

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

14. ペット飼育に関連して問題となった動物を選択ください。

「その他」の内容

ウサギ (6名)	ハムスター (2名)	モルモット
ネズミに似た大きいサイズ	大半のもの	

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

20. ペット飼育について相談を受けて困った時、どこへ相談しますか。

「その他」の内容

親族、家族 (5名)
保護猫カフェ
保健所や愛護センターは引き取り手のない成猫の受け入れはしてくれなかった。
他事業所担当者 (デイやヘルパー等関係機関)
施設長
厚生センター
大学の先生
ネットで調べる
未経験
話題として話はあるが相談を受けたことは無い

◆ペット飼育が、在宅医療・介護においてメリットとなった好事例があれば記載ください。

夕方までダラダラ寝て深夜まで起きて、昼夜逆転気味だった人が、猫を飼い始めて、猫と遊びたくて朝起きるようになった。猫の世話を通して、一日の活動性が上がった人がある。他にも、犬の散歩を続けられるようにリハビリに熱心に取り組む人もおり、メリットもあると思う。
散歩などの世話が運動になっている
生活上の生きがいや役割ももてる。介護予防にもつながる
話し相手であったり、世話をするものの役割や生活のメリハリになっている。
犬と散歩するため、犬のために、自分も元気にしようと、前向きな気持ちになった利用者がいた。
意欲になっている。
ペットを可愛がる事で気持ちが安定している様子
犬を飼っており、独居の方の家族になっている。愛犬がいるから頑張る意欲に繋がっている。
ペットがいるから頑張れる
家族が亡くなられた後に飼い始めて精神的な癒しや支えになった事例。
犬の散歩がほぼ唯一の外出・運動の機会。日課。
本人の意欲、自分が面倒を見てやらねばと言う気持ちで頑張っている。
ペットとともに暮らすことが、孤独による寂しさを和らげる生きがいになったケース
ペットが居る事で、精神安定とか。癒しになっている。餌やりなど役割がある。
生き甲斐になり、リハビリにがんばって、自宅を目指して、帰られた。
ペットが気になるから早めに退院したいと言う。
ペットが待ってるから早く退院したいというこえをよく聞きます。
ペットの世話のため活動量維持につながっている。
ペットが居るのでなるべく早く家に帰りたいたいという気持ちを持っておられた。これはメリットでもありデメリット（拒否事例）でもある
認知症の方の精神安定
ペットの世話のために自分が元気がならないといけないという意欲につながった
独居の人は話し相手、癒し
猫の世話のために、元気で過ごさなくてはと励みになっていることはメリット。しかし、もう在宅限界と誰もが思うのに、猫や犬のために入院や施設入所を拒否というデメリットもある。
認知症の方が猫を飼育していた。癒しになっていた。
好事例とまではいかないが、猫がベッドの上に寄って来たら猫と会話や話しかけをしている人があるのでペットも人間にとっては元気や活力をもらえる生き物だと思っています。
独居で犬猫を買って癒しになっている。本人が落ち着いている。
在宅生活がペットを世話するために継続できた。自分の役割を家族の中で持てた。
本人にとってはペットは家族なので、お世話をする事によって生活にハリが出たり癒しになっていると思う。心身の活性化が図れている。

病気の後遺症で手足の動きが悪くなった方が、ペットの世話をすることによって動きが改善された方や、話しかけることで言葉数が増えたりスムーズに言葉が出るようになった方もいる。
ペットがいる事で規則正しい生活を送ることができた。
認知症の利用者さんがペット飼育を始めて、表情が明るくなった。ペットの話題でそれまでケアマネに対して「敵」と怒りをぶつけてきていたが関係性がよくなった。
高齢者家庭の癒しになっている。子どものように大切に育てていて生活のハリにもなっている。
家族の癒しとなっている。
癒しとなっており家族間のトラブルが減った。生きることに對しての意欲につながっている。
ペットの餌やりが自分の役割と感じており、外に出ない方ですがペットの餌のためなら普段乗らない自転車へ乗ってスーパーへ買い物に出かけること。
入院患者がペットに会うために、リハビリを意欲的に行い、在宅生活に戻れたこと。
本人の生きる糧
愛犬の散歩を行う事で外出機会や運動機会につながっている方が居ます。
動物の餌など、お世話を意識することでハリが保てると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・早く帰って世話をしたいので、とリハビリを頑張られて退院された ・猫に会いに別に暮らしている孫が寄ってくれて嬉しい
生きがいになっている
ペットがいるから、がんばれるといわれる
精神的安定、在宅継続意欲
生きる希望になっている。
病院入院中はペットの事ばかりを気にされ、食事摂取量の低下などにより弱体化しましたが、退院後に犬の散歩がしたいというモチベーションにより、元気になった方がおられます。
介護現場では、犬の訪問を喜び言葉や笑いを引き出してくれる。
セラピーになる
情緒が安定する
日常生活ペットの世話が刺激になっている。話し相手
在宅で看取りケアで介入させて頂いたとき、病状的には麻薬も効いてるか怪しい状態でも、飼い犬や猫が側でいるだけで痛みが和らいで、最後まで苦痛で苦しむ事なく最後を迎えられた事例があります。医学的には相当な痛みがはしっていたはずですが、環境が住み慣れた家、ずっと生活を共にしていた犬猫と最後まで過ごせた事がその方にとっては良薬になっていたと思えました。
ペットの世話が生きがいで患者様の活気がある
猫に会うために頑張ってリハビリされた事例
入院となったがペットの為にとリハビリを頑張られ早期退院目指したこと。
癒やされていました
ペットを大事に思い、気かけながらケアへの意欲が出た
療養の励みになる

<p>ペットを家族として一緒に生活しておられる方の入院があったが、他の家族が面会に連れて来て面会された事例があり、とてもうれしそうにしておられたのを覚えています。</p>
<p>独居で話す相手も居ないが、ペットに話しかけるので寂しさはあまり感じない</p>
<p>落ちついたら生活、餌やりをしないといけないので、朝も起きる</p>
<p>入院となった時、病院駐車場に犬を連れ見ることができ退院への意欲がわいた</p>
<p>以前、担当していた方です 脳梗塞発症後、右片麻痺の後遺症が残った 施設入所されたが鬱になり自宅に戻った 家に戻るといつも散歩をしていた愛犬が待っていた 愛犬に手を伸ばし、笑顔になり、食事もとれるようになった その後、家族の献身な介護と愛犬に見守られ、寝たきり状態でしたが、穏やかに自宅で最後を迎えられました</p>
<p>ペットが話し相手になっていてここが和む様子を見た。 二人暮らしで夫が死亡されて認知症のある方で猫がいることで少しは気がまぎれたり世話をされるなどして生きがいの一つにもなっていた。</p>
<p>ペットの存在が家族の癒しになっていると感じることがある</p>
<p>癒し</p>
<p>飼っている家庭にとっては癒しとなり心の安定につながる。</p>
<p>犬の散歩を以前のように再開したいという本人の思いがあり、自宅での自主運動を頑張り、元気になった。ペット（猫）がいるから癒しになり、またペットのためにも元気でいないと前向きに生活している。</p>
<p>ペットと過ごすことが活力になっていた</p>
<p>ペットの存在が独居生活の癒しになっていることや、お世話をし、屋外に出る機会が得られている。</p>
<p>10年くらい前まで10年ほど在宅ケアマネをしていました。田舎なので家の中で猫を飼う方はいましたが、犬はだいたい外飼いで出入り時に吠えられて怖かった思いはしました。現在は施設ケアマネなので今回のアンケート調査内容にあまりご協力できないですが、入居後にペットの心配を言われたときはご家族に相談して面会に連れてきていただいたことがありました。またそのペットが亡くなったことを伝えた時は「自分より先に死んでよかった」とも言われていました。</p>
<p>犬が大好きで、難病で寝たきりですが、犬をベッド上に家族が置いて、触れ合うことで、精神的安定がはかれていた。</p>
<p>家に帰るための希望になった。</p>
<p>ペットが居ることにより、私も頑張らないと、気分が前向きになる。</p>
<p>癒しになっている</p>
<p>散歩やお世話による活動量の維持</p>
<p>軽度認知症の方がうさぎやインコを飼っており、毎日エサや水を替えることに自分の役割を感じておられた。</p>
<p>動物のお世話をするのが、生きがいになっている。</p>
<p>癒し</p>

ペットがいることでリハビリを頑張っている
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の発症率が少ないといった研究報告は聞いたことがある ・犬の散歩が屋外歩行訓練や歩行車使用の目的になった
配偶者が急逝されて独居になった時、心の支え、生活の意欲になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の本人、家族に懐いており癒しとなっている事 ・毎日の散歩が必要なため屋外に出ることができる事
1人では運動したくない肩が、犬の散歩も兼ねてご自身の運動もできている。
癒やされる、寂しさが紛れる
認知症予防や生活リズムの確立に役に立った
看取りの方が病院か在宅かの場面でペットに会いたいとのことで在宅となった。本人の望みをかなえられ、家族も後悔なくおくれた。本人も痛みもある中でしたが、帰った事、また同じ部屋で過ごせたこと喜んでおられました。病院では会うことができなかったので、メリットだと思います。
遠方の家族が文鳥をプレゼントしたことを、きっかけに夫婦仲がよくなった。
その方にとっての生きがい
歩行困難で介助なしではペット、車いすから離れることができない利用者に対して、ベッド上で寄り添うねこや傍で寄り添う犬。利用者が笑顔になったり、声掛けしたりそっと撫でてみたりと。利用者や家族が癒されやさしくなる。訪問者の自分も同じく同様に癒される。
飼犬のために、活動的に世話されていた
自分よりペット主体に生活されていた
毎日の支えになっていたのかも？
ペットを愛でるために意欲上昇
散歩をともにして元気になった
癒やし
この子がいるから 寂しくない
場が和む
癒やしになっている
元気になる
ペットがいることで 心の拠り所になっているようです。
心の安定
世話するために元気でいたいという意欲
家族同様心の支えであり、独居ならなおのこと寂しさを紛らわされている。
安心や、安らぎ。世話をすることでの責任感や、役割の維持。
話の糸口になることがある。
夫が施設入所して精神的に落ち込んでいたがペットの世話が生きる気力になった。
<ul style="list-style-type: none"> ペットがいる事で、会話がうまれる 入院中でも、ペットがいるから早く家に帰りたいという意欲が湧く なでる事で、手のリハビリになった

ペット飼育が生きがい　　ペットといると精神的に安定する
ペットの世話をすることが、本人の役割になり、生きがいとなっていた。
以前、話し合いが困難なかが、猫の話しになると会話がはずんだ。
癒しになりお年寄りが元気になった
本人介護者ともに犬がいたことで癒されている。
利用者さんの気持ちを支えてくれる。
ペット（猫4匹）が心配で入院、施設入所とならない様に自主運動の継続、食事に気をつけて過ごしてみえます。
認知症の利用者が犬の散歩をすることで、運動の機会、他者との交流の機会を持つきっかけとなり、認知機能の維持ができています。また、犬がしっかりと家に連れ帰ってくれるため、これまで自宅に帰れなくなったことがない。
利用者さんが元気になった
いきがいになっている。
利用者様が、動物や赤ちゃんのTVでも、表情がやわらぐのを、いつも感じています。
癒しや運動の機会が作れる
訪問の折、ペットに話しかけたり、ペットに認めてもらえると、本人・家族の警戒心が解け、コミュニケーションが取りやすくなった。
動物の世話が役割、生きがい
ペットに会うために退院できるように治療を頑張り、退院後もペットと一緒に生活することでさらに元気を取り戻された
ペットに会いたくて入院リハビリを頑張った
癒やし、意欲向上になる。
高齢の一人暮らしの場合、ペットがいることで、食事の世話や散歩の世話が有り、生活のメリハリやリズムが整う場合があった
<ul style="list-style-type: none"> ・独居の方の場合、孤独の解消 ・ペットの世話で日課の継続、生活リズムが整う ・ペットがいることで、遠方の家族も気にかけて帰省回数が増える ・ペットに話しかけておられ、笑顔が見られたり世話をすることで前向きな姿勢が見えました。
犬の場合は、散歩の習慣ができる、訪問や電話に吠えて知らせてくれる、等。どの動物でも世話をすると生きがいを持って生活ができる。
愛犬がいるから家でごんばろうと思える、と言われて一人暮らしを頑張ってみえる方がいらっしゃいます。
適当に飼育しているのであまりメリットは感じません。
生きがいや楽しみ
癒しになっている
ペットがいない生活は考えられないような方がいらっしゃる。癒やしになっている。
作話、幻視が聞かれなくなった

本人の生きる気力につながった
入院は緊急ではあったので拒否はできなかったが、ペットのために退院意欲につながり、在宅復帰が早まったケースあり。（入院中は独居の方だったが、親戚や知人等の支援で猫のえさやりとかがあった）
ペットが癒しとなり、生きる気力となった。
独居の女性の利用者さんですが、室内用として一匹の猫を飼っておられます。肺がんの治療中ですが、受信のたびに「入院になったらどうしよう、この子（猫）を置いていけんから入院したくないわ。かわいそうやから」と言われ、「頑張らにゃ」と意欲的に生活しておられます。この家には外からも集まってくる猫が2匹ほどいて庭にいます。
息子と二人暮らしであったが、息子が急死され落ち込みがひどかった。（いつも泣いていた。）2匹の猫の面倒を見なくてはならず、猫のおかげでこの子たちを置いて死ねないと一人暮らしを続けている。生きる張りになっている。
・高齢者がペットを飼うことによって、生活のリズムが整う。もちろん、飼い主の健康状態がいい場合ではあるが・・・ ・高齢者ばかりではなく、幼い子供にとっても、ペットを飼うことによって、命の大切さ、生き物への思いやり、他人（他の生き物）を受け入れる心が芽生えると思う。精神的な支えができて、スマホゲームなどから距離を置く時間が確保できると思う。
犬を見ているだけで癒される（疲れがとれる）穏やかな心でいられる。ペット（犬）がいると夫婦トラブルが軽減され、会話が增え、仲良く、生活できている。
本人の生きがいがあれば良い方にしてあげたい。
猫を飼育している一人生活の人が猫に声掛けしているのを見るととても優しい顔をなさるので心の拠り所になっていると思います。

◆在宅療養者のペット飼育に関する問題で、心に残る事例やお気づきの点、お考えについて記載く

ださい。

自分が担当していた人ではないが、猫を数匹飼っていた人が入院した際、家から放して野良猫にしてしまった人がいた。動物を飼うなら、万が一自分自身が事故や病気になった時も責任を持ってほしいと思う。
ノミが発生しサービス利用が困難となった
介護が必要になり、自分がお世話出来なくなる事例がありました。なかなか後のお世話を引き受けていただけの方が見つからずに公的機関に相談するのは自分の役割としては辛く感じました。
ペットが高齢者の心の癒やし・励みになる一方、足腰が弱くなり糞尿の始末や世話が十分できなくなり不衛生な状態になっている事例もある。現状で近隣トラブルにまではなっていないが、周囲が気づいて介入が難しい。
猫数匹と暮らし。臭いとゴミで立ち入るのが困難な状態になっていた。ノミの発生で駆除するまで通所サービスが使えなかった。
在宅療養者ではないが、生活困窮者や世帯に犬や猫の多頭飼いが多く印象をうける。自分の食事のままならないのにペットの餌を優先するケースが少なくない。世間から孤立し、寂しい思いから動物に矛先が向いていると考察する。
飼い主が高齢となり、認知機能の低下もあり、ペットの飼育、管理が困難となることもあり、衛生面のことややはり気になります。
猫を高齢者ご夫婦が飼っていたが避妊などせずに多頭飼いになりかけていた。 べつの認知症の方の家に猫がいてヘルパーさんがノミの被害にあっていた。 動物がセラピーの役割にもなっているから、大事とも考える。
世話ができ無いのにペットを飼う
ペット死去後の喪失感で一時的にうつ状態となり、デイサービス通所を開始。心の拠り所を得て前向きに生活できるようになった。
恒例の一人暮らしの女性が飼い犬と長年暮らし、散歩を日課にし、具合が悪くなれば一緒に土間脇で、寝て看病した。が自分が入院した時は誰も見てくれる人がいなかったため、ひと月近くだったが退院した時は衰弱していたが、家で待っていてくれ。その後は犬が死ぬまで在宅生活を継続できた事例があった。
認知症独居のかたが適切な支援が出来なくて近隣から苦情があった時にいろいろな機関に相談したが、結局対応全てケアマネが制度につなぐために動くしかなかった
一人暮らしの本人亡きあとペットが野良に。病気を疑う見た目になり、まっすぐ歩けず用水路に落ちては住民や通報を受けた市役所が助けるを繰り返す。ペットの飼い主死亡で親類も近くにおらず、その人のペットと断言できる人がいないので、すくい上げられてもまた放置され。 数日後、またまた用水路に落ち。愛護センターでは受入してもらえず保健所に連絡することになった。
多頭飼育のために世話に追われたり、体に動物が乗るなどして十分に睡眠や疲れが取れていない方がリハビリに来られる。ペットがいて生活に張り合いがある反面、生活環境や生活リズムが乱れ精神的な不安定さに繋がっていると感じる。

<p>ペット飼育によって、独居の方などの孤立感を和らげる効果はあると思うが、自らの食事を餌として与えたり、生活だけでも苦しいのにペットにかかるお金を優先したり、自分に必要な医療やサービスを受けないのは本末転倒だと思う。</p>
<p>介護犬として犬を飼育している施設があるが、衛生面やアレルギーの方への対応など、適切に行われているのか疑問に感じたことがある。</p>
<p>屋内、糞尿の汚染がひどい。独自でスリッパを持参したいが、遠慮もあってしにくい。 時々タイラしている介護者から乱暴な扱いがあったりを目にする。</p>
<p>入院すると餌やりが気になり、ケアマネや包括に相談するが、そのあとどうなったのかフィードバックがないため、どうしたら良かったのかわからない</p>
<p>本人が野良猫に餌をやるため CM が避妊手術に連れて行ったと聞いた。</p>
<p>室内飼いの犬が攻撃的なので、在宅サービスが受けられず、退院調整困難となった事例あり。</p>
<p>家族同然で心の支えになって良いと思います。飼育は届出制度にしてほしいし、適切な飼育が出来ない場合は保護してほしい。</p>
<p>自分が入院した時にどうするかなど、日頃から家族間でも相談していただくことが大切だと思います。</p>
<p>多頭飼育（猫）で家が汚染されその中で生活されていた。感染症（マダニ）で担当患者が入院した事があった。本人はあまり外に出ないが患っておりおそらくペット（猫）が外に出て持ち帰った物だと思われる。</p>
<p>対象者のケアに注力してペットのことについてはあまり気にしていなかった。不適切飼育になる前の段階で関わりの中でなにか支援できることもあったのではないかと思う。</p>
<p>例えば、ペットがいることで1人暮らしの張り合いができることはよく聞きます。ただ入院や施設入所で結局は家族や知人に預けたり、短期間ならペットホテルに預けるといった状態を聞くだけで、ペットのことまで支援者として深く考えてはいなかったのが現状です。</p>
<p>近所への迷惑やペットの少し先の将来を考える事なく、単に可愛い、なついているという理由だけでエサやりだけを無責任に続けている高齢者は、ネグレクトでもある。</p>
<p>ペットを理由に必要なサービスを拒否する。</p>
<p>島で猫がたくさん家に寄り付いていた利用者がいた。飼育しているという程ではないが、餌をやるので集まってきていた。入所して島を離れる時に放置してきたことが心に引っかかったままである。</p>
<p>送迎時にエサや水の補充・涼しい（暖かい）場所への移動等手伝ってくれる通所事業所もある。 本人が入所・入院・亡くなったときに引き取り手がなく、ケアマネやサービス事業者の方が引き取ったケースがある（事前に本人の了解を得ていた）。本人の意思表示が行える早い段階でペットの今後を相談しておく必要性を強く感じる。 部分的にお世話を手伝ってくれるボランティア等があればいいと思う（散歩や衛生面等）。また、一時的に預かってくれるところがあればいいと思う。</p>
<p>現在担当でペット飼育で問題になるようなケースはありませんが、自分自身ペットをいろいろと飼っているため自分が入院等した場合、ペットの世話を誰に頼むか思案中です。</p>
<p>身寄りのない高齢者が入所した後、残されたペットの引受先がなかったため、保健所へ依頼することになったが、本人の同意がないと難しかったりするなど課題があった。</p>
<p>特殊寝台の間に子猫が入り込むことがあり、使用上の注意を受けたことがあります。</p>

猫砂を利用者が食べていた。
多頭飼育で衛生的によくはない環境で生活を送っている。
高齢夫婦でのペットの飼育は、餌の管理やトイレの始末など他の人を頼らないと、難しくなるが、実際には飼育している方が多いと感じています。
入院患者が猫を飼っていて、診療所内でノミが多量発生した。 近隣の猫が診療所内に入り込み、廊下に排尿し悪臭がしていた（2件）
認知症の高齢者夫婦の家にいつのまにか棲みついた猫が数匹いた。子猫もいた。 いつも訪問すると糞尿の匂いがして、台所には糞がある。いくら掃除しても同じことの繰り返し、夫婦は世話はできないが、猫が出入りできるように暑い時も寒い時も玄関を開けている。 ヘルパーの作る料理を先に猫が食べる事も良くあった。結局、夫婦が施設入所し家は鍵を閉めたので猫は家に寄り付かなくなった。夫婦はもともと自分たちが飼っている意識はなかったので、猫の心配はせずに入所された。
独居高齢者の寂しさを猫の飼育で癒やされている例は比較的良好に見られていると思います ただ、認知機能の低下や元来の孤立傾向のある人は衛生に気を使わずノミだらけの猫屋敷になっていることがあり本来は訪問介護サービスが必要なのに支援に入れなかった例もあります 多職種のカンファで対応の糸口を見ついたりして平和裏に解決した例もありますが最後まで難渋したこともあります
猫がいるから入院できない うさぎも一緒に荷物として救急車に同乗 一泊入院
自分自身は動物が大変苦手ですが、患者の多くが動物を飼われていますので、寄り添えるよう、努力はしています。 自分の体を冷静に判断してペットを預ける決断をされた方がおられました。そのお手伝いもできましたが、その間の様々なお話し合いが心に残っています。寂しいけど、つらいけど、でもね、と何度もうかがい、動物愛護が人の心身の健康を支えていることをじっくり考える機会となりました。
親に精神的支えとして、親に相談せずペットをプレゼントする子供達には、親の状況をしっかり理解して行動して欲しい。
ペットの管理ができず室内が糞尿だらけだった。
お一人暮らしの方の飼っていた猫がゲージの中でずっと、排泄物はヘルパーが来たときだけ始末するため、非常に不衛生な猫がいました。飼う際には「可愛いから、老後の生きがい」などと言っておられたとの情報があります。すごく可愛い猫だったのですが、ものすごく不憫でした。お一人暮らしで先の事も分からないため、①自分の事が自分でできるか ②ご近所の方との付き合いがあるかどうか ③周囲にすぐにペット含め手助けがあるか などの条件を設けた上で、飼育環境/条件がある方のみ、飼育可能といったルール制定が必要かと思います。
病院勤務時は必ず入院時は飼育可にあるペットの有無を聞く事が多かったです。 一度、ご入院された患者様のペットが衰弱してしまい、院内周知事案となりましたので。
飼育者が病気になった時の、話し合いを持つ事が大切であることを、まず互いに認識する事が先決である。
在宅生活で犬を飼っていた方が見えた。訪問サービス中もそばいた。興奮して吠えることあったが、職員に危険なことはなかった。亡くなった後残された家族と生活された。

<p>自分が担当したわけではないが主で飼育している人が入院や入所が必要になった場合、そのペットはどうするのだろうと思ったことはある。</p>
<p>精密機器を導入時に、動物の抜け毛や糞尿で機械が破損し、低酸素状態になってもう少しで命を落とす事になっていたという事があるので、注意が必要だと思う。</p>
<p>家の中が、糞尿で汚染していた。外出して戻られない日が増え、ある日突然犬がいなくなっていた。家の中に閉じ込めて長い間外出されたので死んでしまったのかもしれない。</p>
<p>多頭飼いが有り、飼育が無理だと判断者、地域のボランティアさんらと協力し、里親を探して引き渡した。</p> <p>ヘルパーさんが早くに多頭飼いを発見し、地域の皆で協力した事が良かった。</p>
<p>飼育していくのが厳しくなると思った時点で早めに周りの方に相談していくのがいいと思います。ペットと生活を共にされてきた方も悲しいとは思いますがペットも粗末にされたらかわいそうだと想う。</p>
<p>私事ですが、子供が巣立ち、自分の役割を見失いましたが</p> <p>愛犬のおかげで、また夫婦の会話、子供や孫との関係、仕事など充実できるようになりました</p> <p>ペットが問題ではありません、</p> <p>人間の無知が問題を起こすのです</p>
<p>吠えていました。</p>
<p>認知症や身体障害で、衛生面の世話が難しい為に部屋に排泄物や毛などが散らばりあった。</p>
<p>ペット火葬まで冷蔵庫に保管されていた事例</p>
<p>入院となった時、犬を預ける人が急になくて外来通院となった（先生も OK された）</p> <p>入院されていて犬の面会に外で会った（20 年も前のこと）犬も本人さんも喜んでおられて安心した。</p>
<p>①猫を避妊せず毎年産まれるため不在時の世話をさせられる。</p> <p>②訪問時毎回犬に飛びつかれ制服を破られる。</p>
<p>ケアマネ自身の家に近所の猫がプランターに糞をする。そのため薬をまいたりするが何度も来る。犬のつないである鎖が長く訪問時吠えるので怖い思いをした。</p> <p>30 代頃犬の頭をなでようとしてかまれそうになり友より必ず上から触ろうとしてはだめで下から触るほうが良いと聞かされた。</p> <p>テレビ等で犬にはおしりを向けて近づいたほうが良いということも聞いたことがある。今のところ自身の担当は猫の飼育の方ばかり</p>
<p>独居、子供がいない等の方がさみしさをまぎらわす為にペットを飼育されるのは仕方がないかと思いません。</p> <p>でも自分できちんと飼育ができなくなった時が問題でそうなる前にペットをどうするか支援者や家族が話しておく事が必要だと思います。</p>
<p>一人暮らしで犬を飼っていた方が転倒、入院され飼えなくなり、保護団体や家族に引き取られることがあった。保護団体に預けた方は犬のことをいつも気にされており、とても辛そうだった。とても可愛がっていて、普通のフードは食べずにチーズなどをあげていたため、保護施設に行ったときはなかなか食事を食べないと聞き、心配していた。他の人にも懐かず、突然飼い主がいなくなり、よそに連れていかれたことがかわいそうと話してくれていた。犬の話しになると落ち込んでしまうことがあった。</p>

<p>ペットの高齢化で飼い始めたときは大丈夫でもだんだん世話ができなくなるため、動物を飼うのは最後のことまで考えて飼わないと行けないと思った。</p> <p>家に来る野良猫に餌をあげていて、毎日猫が来るのを楽しみにしていた方がいたが、近所の方の苦情があり、保護団体に保護してもらうことがあった。毎日の日課、楽しみがなくなることで、その方の生活の気力がなくなるのを見てわかった。動物が人の気持ちに良い影響を与えるのは確かだが、それが出来る環境や状態というのは在宅療養者には難しい。</p>
<p>施設入所後もペットと生活できる施設開設</p>
<p>高齢者夫婦や独居の方については、その方が入院や亡くなってしまった場合、ペットをどうするのか家族間で話し合われているケースは少ない。</p>
<p>お世話をすることが生活意欲の維持につながっている。</p>
<p>動物を飼う時は子供など他のご家族に相談して協力体制の元、飼えると良いとは思いますが。現在、ロボット型もあり、そういう形態になっていければ、問題が少し減るとは思われますが。</p>
<p>捨て猫を3匹、拾ってきて当初は引取先が見つかるまでの保護をと思い引取先をあたったが2匹は引取先が見つかり、残り1匹は1ヶ月経っても見つからず、飼うことになり、避妊手術をして飼い出したところに家族がまた2匹拾ってきて、その2匹も保護したが引取先が見つからず合計3匹を避妊手術して家猫として飼っている</p>
<p>独り暮らしで寂しくて、庭に来る野良猫に餌付けして、近所からクレームが来ていた。本人にとっては癒やしの相手だった。</p>
<p>個人的にアニマルセラピーは効果あると思う</p>
<p>対象者の突然の入院、入所に伴い飼っていた犬の世話が誰もできなくなった。飼育環境も劣悪で、崩れかかった自宅で放し飼いとなっていて、近所からも鳴き声などで苦情がきており、保健所に相談し引き取ってもらうことになった。もう少し早い時期に本人と犬の処遇について相談すべきだと思うが、経済苦の本人なりに飼っている状況をどう声をかけて対応すべきだったかと思う事例。</p>
<p>健常者においても言えることだが、緊急入院などの際に引き取り手がないと困ってしまう。支援者が世話をするのは本来ではないが、見捨てる訳にはいかないためやるしかない。</p>
<p>野良猫に餌をやっている方、急に猫が居なくなったとき寂しいと話された。</p>
<p>ご本人よるペットの排泄物の管理が困難で家全体の衛生環境が悪い利用者がいた。本人のベッドに乗ったりするためベッドの汚染も見られていた。</p> <p>褥瘡形成していたため、衛生面を整えていく必要があったが、サービス上介入が難しく環境調整が困難であった。</p>
<p>ペット飼育は個人の責任です。</p> <p>行政が関わったら無責任な飼い主が安心して、無責任な飼育が増えると思います。</p> <p>厚生センターなど適切な施設がすでにあるので、対応先を増やす必要はないと思います。</p> <p>住民からの血税で対応する必要はあるのでしょうか。</p>
<p>飼い猫がいるから生きていたい、という方がいた。ペットの存在は生きる力になるのだと思った。</p>
<p>息子夫婦がバリアフリーで新居を建てて引越しを促したが、猫が居るとの理由で元の自宅に住んでいる事例があった。</p>

<p>ペットがいることでご本人たちの生きがい等になっていることが多く、適切な飼育ができていない、不衛生な生活環境、必要と思われるサービスをペットを理由に利用しないなどがあっても支援者としてなかなか状況を改善できないことがあります。</p> <p>ペットにかわる、動物ロボット等などが代わりとなるものがもっと身近なものになるといいとも思います。</p>
<p>飼い犬がレンタルしている玄関上がり框用手すりの踏み台カバーをかみちぎり、弁償することになった。家族の一員であるペットと屋内で生活を共にしていると、このようなことになりかねないと勉強になった。</p>
<p>複数の猫が住みついて非常に不衛生な家で暮らしていたが本人は全く気にせずエサをやって楽しく過ごされていた。独居で認知症があり、施設入所となったが、もう少し在宅で過ごせるよう支援の手立てがあったのではと思う事例。</p>
<p>猫を屋外で飼っている方がおり、庭でエサをやっているが、放し飼いで、家のなかに入ると追い出している。本人・家族は飼っているといわれるが、疑問に思う。</p> <p>関係性が悪化する可能性もあり詳しくは聞けない。</p>
<p>在宅療養者宅のペットが体調不良で、ご家族が療養者とペットの介護で疲労している、眠れていない。</p>
<p>独居生活に復帰するために、飼い犬をやむなく保護団体へ引き取ってもらいました</p>
<p>在宅での療養のなかで、本人、ご家族が一つになって頑張るための立役者とおもう。</p> <p>励みになり、癒しになり、悲しみ、苦しみのダメージを和らげるクッションのような存在とおもいます。</p>
<p>猫の避妊、多頭飼い</p>
<p>在宅困難な状況にも関わらず、ペットをおいて家をでることを納得されないケースがあった。多頭飼育のため、家屋環境が劣悪なケースを経験した。</p>
<p>ペットショップでは高齢の方へ販売しない所が有ります</p> <p>田舎では何処でも、誰から貰っても育てることが可能です</p> <p>家族が責任を持って最期までお世話出来る社会にしましょう</p>
<p>飼い主の死亡等による取り残されたペットの問題</p>
<p>ペットを飼うことでこころの支えになっている人が多い</p>
<p>去勢手術のしてない猫がたくさん子猫を産み、世話もろくにしておらず、本人が入所の際、本人ではなく、周りの担当者達が苦労した</p>
<p>倒れた飼い主の側に 訪問するまでの数日 ずっと座っていた</p>
<p>自分の事もままならないのにペットを飼っている。ペットフードではなく自分の食事の残りを与えている。放し飼い状態でトイレの世話もしなく悪臭漂い家の中も糞尿だらけ。</p>
<p>犬がかまってほしくて、ケアにならない。</p>
<p>高齢になると ペットを飼いたくても飼えないので、ペットのレンタルなどあれば、とおっしゃられる方もいました。</p>
<p>認知症一人暮らしで、飼育できないが猫が増えていった。</p>
<p>本人は高齢でも、ペットが死ぬとまた飼ってしまう。世話ができる気である。自分が亡くなった後の事を考えない。</p>
<p>何十匹と野良犬 or 野良猫を餌付けされていて、送迎時、大変だったと聞いたことがある、</p>

<p>猫多頭飼育で避妊はしているが、トイレの処理や掃除ができておらず家中糞尿や毛で汚れており、複数の支援機関で掃除を行った。現在も継続支援中。</p>
<p>捨てられた多数の子猫を自宅に入れたことで皮膚病になった人がいた。やさしさがアダになった。猫を多頭飼育していた人が自宅で孤立死して見つかった。遺体に食べられた跡があった。</p>
<p>癒しになる。</p>
<p>本人の治療だけで大変なのに、ペット飼育により調整事が増えるのであれば、加算をとらないとやってられない。</p>
<p>生活困窮や、もともとの生活能力に問題のある家庭における飼育による更なる住環境の悪化（不衛生）を改善することが困難。</p>
<p>動物福祉に関する、社会の仕組みができてきていないので、ボランティアや支援者の善意頼みになっており、現場の人の負担が大きい。</p>
<p>動物愛護について幼児や学校教育から学ぶ機会があるといい</p>
<p>在宅療養者のペット飼育に関する問題とは話がズレてしまうかと思いますが、私自身が犬を飼っていた経験と職務で関わる動物の課題から思うことを記します。</p> <p>日々の飼養から最期までにわたり、自身が責任を持つことのできない命（動物の）には関与するべきではないと考えます。自然に生きる生物に対し、「可愛らしい」とか「触れ合いたい」という気持ちは理解できるものの、自身の気持ちを中心とした関与は厳に行うべきではなく、日本においては、これらの動物に対する意識や考え方が一般に未成熟であるような気がします。動物をペットとして飼うこと、その命に対する責任について厳格にするとともに、そういった考えや意識が広まるよう、まず広報啓発が必要かと思えます。</p>
<p>本人、家族が一度に入院 民生委員さんや近隣の方の手助けを受けた</p>
<p>猫を多頭飼っていた家族が、掃除などしなかった為、利用者の部屋が猫の生活場になっていたケースが以前、あった。エサ、糞尿が酷く衛生環境が悪かった。家族に掃除などお願いしたが、聞き入れはなかった。</p>
<p>現在ペットを飼っている担当利用者さんは家族がいるから良いが…家族のいない方が亡くなられた場合、飼育していたペットの行き先が心配です。</p>
<p>町の総合病院が入院時にペット可（急性期の患者と当面まず犬のみ）で支援している新聞記事を読みました。令和の時代、ペットも家族であるの視点があり家族の絆という内容でした。費用や衛生面の問題、過疎地域では導入あるのか、気になりました。</p>
<p>猫の多頭飼育をしているご家庭で、寝たきりの利用者の足に猫のひっかき傷があった。</p>
<p>生きがいとなっているが、野良猫などに餌をあげるなどして個体数が増えすぎた結果管理できず地域から声上がる事例がある。</p>
<p>犬の多頭飼育において管理し切れず、支援者や親族でシャンプーやトリミングをした事例がある。当事者は高次脳機能障害、うつ病があり家族からも孤立し動物に頼るしかなかったが管理までいたらず、爪の放置、歯肉炎、感染症など犬の健康状態は芳しくなかった。</p>
<p>野良猫に餌をあげ飼っているケース。</p> <p>避妊去勢等していないため、地域猫にもなっていない野良猫が15匹。共食い（猫同士）してしまい自宅</p>

<p>の敷地内に猫の頭蓋骨や皮や肉等が散らばっているとご家族から連絡があったケースが印象に残っている。</p>
<p>背景に精神疾患や知的障害、孤独など飼育する側の問題を感じている</p>
<p>ご本人・ご家族の価値観によるところが大きい、精神障がい分野では、心の安定にもなり、不安要素にもなるので、日々のコミュニケーションで話題にするようにしている。</p>
<p>ペットはその人にとって癒しになりいい面もありますが、一人暮らしの場合は入院時の時はどうするか、自分が亡くなったらどうするかを明確にしておく必要があると思います</p>
<p>猫を理由に入院を拒否していた方の事例</p> <p>患者宅に餌やりに通っていたところ、地域の方が猫の世話を申し出てくれた。患者が亡くなる前にそのことをお伝えでき、「うれしい。安心した。」と言っていただけだ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・20年も前のこと、犬の多頭飼育をしていた独居高齢女性の方のお宅では、床の下など犬の死骸（骨）が相当数あったとのこと。その方は、国道でひかれた犬の死骸を片付けようとして、本人もひかれて亡くなりました。 ・高齢の母と息子さんの2人暮らしのお宅、最初は捨て猫を一匹保護したところから野良猫も来るようになり、自然繁殖にて増え続け、手に負えなくなった。去勢手術も猫の数が多く費用の捻出が難しい・・・。早い段階で指導や対策を講じられたら良かったのと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢になると犬の散歩が難しい（引っ張られて転倒など）。入院時などすぐに対応してくれる人を見つけることは難しい。 ・ケージの中で犬（室内犬）は過ごしているが、ヘルパーが来ると興奮して吠え続ける。利用者とのコミュニケーションが取りづらい ・独居の方にとったら、ペットは家族の一員。先ではどうしたいか考える機会を持つ。間に入ってもらえる関係機関を決める、作る、認知してもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ・排泄、食事の世話ができず、不衛生。また、ヘルパーはそれらの世話が出来ないため、報告することしかできません。 ・送迎時（デイ）、放し飼いにしている犬が飛びついてきたり（雨降りなど汚れた手足で職員の服が汚れ、着替えに家まで帰った事もあった）するが、家族は何も言われない。逆に、「外へ出すな！」と注意されたことがありました。
<p>子猫が産まれると対応しきれない方がみえて、包括に協力してもらって避妊手術受けさせたり里親探ししたりしました。そのうちの一匹はうちの子になりました。</p> <p>噛み癖のある犬を（身を寄せている）息子宅に置いて来れないからと受診拒否してみえた方の愛犬を来院時にお預かりしました。職員も犬好きがたくさんいることが判明しました。</p>
<p>ご本人が望んだわけではなく、迷い猫をたまたま世話をされたのが始まりなんだろうが</p> <p>今では、生きがいみたいなので</p> <p>この先 いつまで身体がついていけるのか心配です。</p>
<p>ペットを飼育できる金があれば、自分の生活（食費など）に使うべきだと思うのですが。</p>
<p>飼い猫の餌にゴキブリが集まる</p>
<p>自分の事を自分でできない人がペットを飼うのはどんなものかと思う。</p>
<p>独居でペット飼育をする場合、自分が死んだ後にペットが残されることも考えた上で飼ってほしい。</p>

<p>今だに、生まれたら捨てれば良いと思っている介護者がいる。介護が必要になっている、高齢者は、自分が亡くなった時に、ペットをどうするのか考えておいた方が良い。</p>
<p>飼い猫の死体の処理</p>
<p>家族間のコミュニケーションの一助になっている ペットも家族となっている</p>
<p>生活困窮者世帯においても、借入を希望する資金の使途にペットの餌を挙げる相談者も多く、ペットが心の拠り所、というよりそれ以上の、依存する相手になってしまっているように感じる事例も多々ある。自身の衣食住よりもペットが大事だと口では言うものの、そのペットに対して安心して暮らせる環境を十分に提供できていないのではないかと憤りを感じる場面もあり、ペットがいることでのその人の幸せ、もそうだが、ペット自身の幸せも同様に担保されなければいけないわけで、ペット保護の必要性も切に感じる。</p>
<p>数匹の猫を屋外内問わず行き来させている為、室内が不衛生になっている。掃除は支援の際一緒にする時以外に節積極的にされている様子伺えない。</p>
<p>1人暮らしのお年寄りが施設入所となる時、「猫が心配でそのままにしては行けない」ということになってしまったこと。</p>
<p>認知症、一人暮らしの方の犬がサービス事業者によく噛みついていたが精神科病院へ入院するにあたり、動物愛護センターの方にひきとってもらった。犬がいることにより、入院や入所がなかなかできなかった。</p>
<p>ネコを多投飼育している家で認定調査をした時に、咳が止まらず苦労しました。</p>
<p>猫も高齢となり、オムツが必要でも、上手に装着できず、猫のお世話をする人が必要だった。</p>
<p>ペットが利用者の生きがいになっている話をしたことがある。</p>
<p>金銭的な余裕がなく、支払いが滞っているが、ペットは数匹飼っている。餌代、ワクチン代などどうしているのか疑問。</p>
<p>生活保護受給者など生活に困っている方がペットを飼っていたり、野良猫に餌をあげていると不衛生で異臭などの問題につながるが多いように思います。</p>
<p>野良猫がその男性の家の車庫に住み着き、子供を産んで多頭飼育になってしまった。その猫たちについて地域からの問い合わせがあり、このままではもっと増えていくことが想像されました。事例会議にも取り上げて、その男性に伝え、矯正手術をしたり、他の飼い主を探したりしてくれました。ペットは存在自体が飼い主の心の癒しであり、それによって話しかけたりして大切なものになります。しかし、飼い主が飼えない状態になると、そのペットはどうなるのかと思うと難しいと思います。</p>
<p>2匹の猫が生きる張りにもなるが、反対に亡くなってしまったら、落ち込みから立ち直れるのか心配。</p>
<p>以前に飼っていた愛犬が、家族の中でも一番なついていた主人が突然亡くなった時、二日間、消息を断った。心当たりを家族で捜しまわったが見つからず、どなたか保健所へ届けてくださり、後日、引き取りに行った。この時、ペットと飼い主の間の絆を強く感じた。今でも放浪する愛犬を保健所へ届けてくださった方、お世話になった保健所の皆さんに感謝の念でいっぱいである。結局、その愛犬は17年間、私たち家族と過ごし、命を全うした。</p>
<p>道路のすみっこに、猫のうんちが放置されていることがあり、見つければ、片づけるように心がけています。</p>

地域診断アンケート自由記述一覧

【ケアマネジャー抽出版】

◆ご回答いただくご自身についてお答えください。

・ご自身はペットを飼育していますか？はいの場合、飼育している動物の種類を教えてください。

「その他」の内容

▼哺乳類

モルモット	デグー	ヤマネ
-------	-----	-----

▼魚類

メダカ (3人)	金魚 (2人)
----------	---------

▼爬虫類

トカゲ	亀	スッポン	イグアナ
-----	---	------	------

▼鳥類

インコ	鳥
-----	---

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

14. ペット飼育に関連して問題となった動物を選択ください。

「その他」の内容

ウサギ (3人)	ハムスター	モルモット
ネズミに似た大きいサイズ		

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

20. ペット飼育について相談を受けて困った時、どこへ相談しますか。

「その他」の内容

親族 (2人)
保護猫カフェ
他事業所担当者 (デイやヘルパー等関係機関)
話題として話はあるが相談を受けたことは無い

◆ペット飼育が、在宅医療・介護においてメリットとなった好事例があれば記載ください。

夕方までダラダラ寝て深夜まで起きて、昼夜逆転気味だった人が、猫を飼い始めて、猫と遊びたくて朝起きるようになった。猫の世話を通して、一日の活動性が上がった人がいる。他にも、犬の散歩を続けられるようにリハビリに熱心に取り組む人もおり、メリットもあると思う。
散歩などの世話が運動になっている
生活上の生きがいや役割がもてる。介護予防にもつながる
話し相手であったり、世話をすることの役割や生活のメリハリになっている。
意欲になっている。
ペットを可愛がる事で気持ちが安定している様子
犬を飼っており、独居の方の家族になっている。愛犬がいるから頑張る意欲に繋がっている。
ペットがいるから頑張れる
本人の意欲、自分が面倒を見てやらねばと言う気持ちで頑張っている。
ペットとともに暮らすことが、孤独による寂しさを和らげる生きがいになったケース
ペットが居る事で、精神安定とか。癒しになっている。餌やりなど役割がある。
ペットが居るのでなるべく早く家に帰りたという気持ちを持っておられた。これはメリットでもありデメリット（拒否事例）でもある
認知症の方の精神安定
独居の人は話し相手、癒し
認知症の方が猫を飼育していた。癒しになっていた。
好事例とまではいかないが、猫がベッドの上に寄って来たら猫と会話や話しかけをしている人がいるのでペットも人間にとっては元気や活力をもらえる生き物だと思っています。
独居で犬猫を買って癒しになっている。本人が落ち着いている。
在宅生活がペットを世話するために継続できた。自分の役割を家族の中で持てた。
本人にとってはペットは家族なので、お世話をする事によって生活にハリが出たり癒しになっていると思う。心身の活性化が図れている。
病気の後遺症で手足の動きが悪くなった方が、ペットの世話をすることによって動きが改善された方や、話しかけることで言葉数が増えたりスムーズに言葉が出るようになった方もいる。
ペットがいる事で規則正しい生活を送ることができた。
認知症の利用者さんがペット飼育を始めて、表情が明るくなった。ペットの話題でそれまでケアマネに対して「敵」と怒りをぶつけてきていたが関係性がよくなった。
高齢者家庭の癒しになっている。子どものように大切に育てていて生活のハリにもなっている。
家族の癒しとなっている。
癒しとなっており家族間のトラブルが減った。生きることに対しての意欲につながっている。
ペットの餌やりが自分の役割と感じており、外に出ない方ですがペットの餌のためなら普段乗らない自転車へ乗ってスーパーへ買い物に出かけること。
本人の生きる糧

愛犬の散歩を行う事で外出機会や運動機会につながっている方が居ます。
動物の餌など、お世話を意識することでハリが保てると思います。
独居で話す相手も居ないが、ペットに話しかけるので寂しさはあまり感じない
落ちついたら生活、餌やりをしないといけないので、朝も起きる
飼っている家庭にとっては癒しとなり心の安定につながる。
犬の散歩を以前のように再開したいという本人の思いがあり、自宅での自主運動を頑張り、元気になった。ペット（猫）がいるから癒しになり、またペットのためにも元気でいないと前向きに生活している。
ペットの存在が独居生活の癒しになっていることや、お世話をし、屋外に出る機会が得られている。
動物のお世話をするのが、生きがいになっている。
配偶者が急逝されて独居になった時、心の支え、生活の意欲になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の本人、家族に懐いており癒しとなっている事 ・ 毎日の散歩が必要なため屋外に出ることができる事
看取りの方が病院か在宅かの場面でペットに会いたいとのことで在宅となった。本人の望みをかなえられ、家族も後悔なくおくれた。本人も痛みもある中でしたが、帰った事、また同じ部屋で過ごせたこと喜んでおられました。病院では会うことができなかったので、メリットだと思います。
元気になる
<p>ペットがいる事で、会話がうまれる</p> <p>入院中でも、ペットがいるから早く家に帰りたいという意欲が湧く</p> <p>なでる事で、手のリハビリになった</p>
以前、話し合いが困難なかが、猫の話しになると会話がはずんだ。
本人介護者ともに犬がいたことで癒されている。
利用者さんの気持ちを支えてくれる。
認知症の利用者が犬の散歩をすることで、運動の機会、他者との交流の機会を持つきっかけとなり、認知機能の維持ができています。また、犬がしっかりと家に連れ帰ってくれるため、これまで自宅に帰れなくなったことがない。
利用者さんが元気になった
利用者様が、動物や赤ちゃんの TV でも、表情がやわらぐのを、いつも感じています。
動物の世話が役割、生きがい
ペットに会いたくて入院リハビリを頑張った
犬の場合は、散歩の習慣ができる、訪問や電話に吠えて知らせてくれる、等。どの動物でも世話をするという生きがいを持って生活ができる。
適当に飼育しているのであまりメリットは感じません。
生きがいや楽しみ
癒しになっている
作話、幻視が聞かれなくなった
本人の生きる気力につながった

入院は緊急ではあったので拒否はできなかったが、ペットのために退院意欲につながり、在宅復帰が早まったケースあり。(入院中は独居の方だったが、親戚や知人等の支援で猫のえさやりとかがあった)

独居の女性の利用者さんですが、室内用として一匹の猫を飼っておられます。肺がんの治療中ですが、受信のたびに「入院になったらどうしよう、この子(猫)を置いていけんから入院したくないわ。かわいそうやから」と言われ、「頑張らにゃ」と意欲的に生活しておられます。この家には外からも集まってくる猫が2匹ほどいて庭にいます。

息子と二人暮らしであったが、息子が急死され落ち込みがひどかった。(いつも泣いていた。)2匹の猫の面倒を見なくてはならず、猫のおかげでこの子たちを置いて死ねないと一人暮らしを続けている。生きる張りになっている。

◆在宅療養者のペット飼育に関する問題で、心に残る事例やお気づきの点、お考えについて記載く

ださい。

自分が担当していた人ではないが、猫を数匹飼っていた人が入院した際、家から放して野良猫にしてしまった人がいた。動物を飼うなら、万が一自分自身が事故や病気になった時も責任を持ってほしいと思う。
ノミが発生しサービス利用が困難となった
介護が必要になり、自分がお世話出来なくなる事例がありました。なかなか後のお世話を引き受けていただける方が見つからずに公的機関に相談するのは自分の役割としては辛く感じました。
猫数匹と暮らし。臭いとゴミで立ち入るのが困難な状態になっていた。ノミの発生で駆除するまで通所サービスが使えなかった。
飼い主が高齢となり、認知機能の低下もあり、ペットの飼育、管理が困難となることがあり、衛生面のことがやはり気になります。
猫を高齢者ご夫婦が飼っていたが避妊などせずに多頭飼いになりかけていた。 べつの認知症の方の家に猫がいてヘルパーさんがノミの被害にあっていた。 動物がセラピーの役割にもなっているから、大事とも考える。
世話ができ無いのにペットを飼う
ペット死去後の喪失感で一時的にうつ状態となり、デイサービス通所を開始。心の拠り所を得て前向きに生活できるようになった。
恒例の一人暮らしの女性が飼い犬と長年暮らし、散歩を日課にし、具合が悪くなれば一緒に土間脇で、寝て看病した。が自分が入院した時は誰も見てくれる人がいなかったで、ひと月近くだったが退院した時は衰弱していたが、家で待っていてくれ。その後は犬が死ぬまで在宅生活を継続できた事例があった。
認知症独居のかたが適切な支援が出来なくて近隣から苦情があった時にいろいろな機関に相談したが、結局対応全てケアマネが制度につなぐために動くしかなかった
介護犬として犬を飼育している施設があるが、衛生面やアレルギーの方への対応など、適切に行われているのか疑問に感じたことがある。
屋内、糞尿の汚染がひどい。独自でスリッパを持参したいが、遠慮もあってしにくい。 時々イライラしている介護者から乱暴な扱いがあったりを目にする。
家族同然で心の支えになって良いと思います。飼育は届出制度にしてほしいし、適切な飼育が出来ない場合は保護してほしい。
多頭飼育（猫）で家が汚染されその中で生活されていた。感染症（マダニ）で担当患者が入院した事があった。本人はあまり外に出ないが患っておりおそらくペット（猫）が外に出て持ち帰った物だと思われる。
ペットを理由に必要なサービスを拒否する。
島で猫がたくさん家に寄り付いていた利用者がいた。飼育しているという程ではないが、餌をやるので集まってきていた。入所して島を離れる時に放置してきたことが心に引っかかったままである。

<p>送迎時にエサや水の補充・涼しい（暖かい）場所への移動等手伝ってくれる通所事業所もある。</p> <p>本人が入所・入院・亡くなったときに引き取り手がなく、ケアマネやサービス事業者の方が引き取ったケースがある（事前に本人の了解を得ていた）。本人の意思表示が行える早い段階でペットの今後を相談しておく必要性を強く感じる。</p> <p>部分的にお世話を手伝ってくれるボランティア等があればいいと思う（散歩や衛生面等）。また、一時的に預かってくれるところがあればいいと思う。</p>
<p>現在担当でペット飼育で問題になるようなケースはありませんが、自分自身ペットをいろいろと飼っているため自分が入院等した場合、ペットの世話を誰に頼むか思案中です。</p>
<p>特殊寝台の間に子猫が入り込むことがあり、使用上の注意を受けたことがあります。</p>
<p>猫砂を利用者が食べていた。</p>
<p>多頭飼育で衛生的によくはない環境で生活を送っている。</p>
<p>高齢夫婦でのペットの飼育は、餌の管理やトイレの始末など他の人を頼らないと、難しくなるが、実際には飼育している方が多いと感じています。</p>
<p>認知症の高齢者夫婦の家にいつのまにか棲みついた猫が数匹いた。子猫もいた。</p> <p>いつも訪問すると糞尿の匂いがして、台所には糞がある。いくら掃除しても同じことの繰り返し、夫婦は世話はできないが、猫が出入りできるように暑い時も寒い時も玄関を開けている。</p> <p>ヘルパーの作る料理を先に猫が食べる事も良くあった。結局、夫婦が施設入所し家は鍵を閉めたので猫は家に寄り付かなくなった。夫婦はもともと自分たちが飼っている意識はなかったため、猫の心配はせずに入所された。</p>
<p>ケアマネ自身の家に近所の猫がプランターにふんをする。そのため薬をまいたりするが何度も来る。</p> <p>犬のつないである鎖が長く訪問時吠えるので怖い思いをした。</p> <p>30代頃犬の頭をなでようとしてかまれそうになり友より必ず上から触ろうとしてはだめで下から触るほうが良いと聞かされた。</p> <p>テレビ等で犬にはおしりを向けて近づいたほうが良いということも聞いたことがある。今のところ自身の担当は猫の飼育の方ばかり</p>
<p>独居、子供がいない等の方がさみしさをまぎらわす為にペットを飼育されるのは仕方がないかと思えます。</p> <p>でも自分できちんと飼育ができなくなった時が問題でそうなる前にペットをどうするか支援者や家族が話しておく事が必要だと思います。</p>
<p>高齢者夫婦や独居の方については、その方が入院や亡くなってしまった場合、ペットをどうするのか家族間で話し合われているケースは少ない。</p>
<p>お世話をすることが生活意欲の維持につながっている。</p>
<p>飼い犬がレンタルしている玄関上がり框用手すりの踏み台カバーをかみちぎり、弁償することになった。家族の一員であるペットと屋内で生活を共にしていると、このようなことになりかねないと勉強になった。</p>
<p>複数の猫が住みついて非常に不衛生な家で暮らしていたが本人は全く気にせずエサをやって楽しく過ごされていた。独居で認知症があり、施設入所となったが、もう少し在宅で過ごせるよう支援の手立があつたのではと思う事例。</p>

<p>一人暮らしで犬を飼っていた方が転倒、入院され飼えなくなり、保護団体や家族に引き取られることがあった。保護団体に預けた方は犬のことをいつも気にされており、とても辛そうだった。とても可愛がっていて、普通のフードは食わずにチーズなどをあげていたため、保護施設に行ったときはなかなか食事を食べないと聞き、心配していた。他の人にも懐かず、突然飼い主がいなくなり、よそに連れていかれたことがかわいそうと話してくれていた。犬の話になると落ち込んでしまうことがあった。ペットの高齢化で飼い始めたときは大丈夫でもだんだん世話ができなくなるため、動物を飼うのは最後のことまで考えて飼わないと行けないと思った。</p> <p>家に来る野良猫に餌をあげていて、毎日猫が来るのを楽しみにしていた方がいたが、近所の方の苦情があり、保護団体に保護してもらうことがあった。毎日の日課、楽しみがなくなることで、その方の生活の気力がなくなるのが見てわかった。動物が人の気持ちに良い影響を与えるのは確かだが、それが出来る環境や状態というのは在宅療養者には難しい。</p>
<p>猫を屋外で飼っている方がおり、庭でエサをやっているが、放し飼いで、家のなかに入ると追い出している。本人・家族は飼っているといわれるが、疑問に思う。</p> <p>関係性が悪化する可能性もあり詳しくは聞けない。</p>
<p>在宅での療養のなかで、本人、ご家族が一つになって頑張るための立役者とおもう。</p> <p>励みになり、癒しになり、悲しみ、苦しみのダメージを和らげるクッションのような存在とおもいます。</p>
<p>本人は高齢でも、ペットが死ぬとまた飼ってしまう。世話ができる気である。自分が亡くなった後の事を考えない。</p>
<p>癒しになる。</p>
<p>生活困窮や、もともとの生活能力に問題のある家庭における飼育による更なる住環境の悪化（不衛生）を改善することが困難。</p>
<p>動物愛護について幼児や学校教育から学ぶ機会があるといい</p>
<p>本人、家族が一度に入院 民生委員さんや近隣の方の手助けを受けた</p>
<p>猫を多頭飼っていた家族が、掃除などしなかった為、利用者の部屋が猫の生活場になっていたケースが以前、あった。エサ、糞尿が酷く衛生環境が悪かった。家族に掃除などお願いしたが、聞き入れはなかった。</p>
<p>現在ペットを飼っている担当利用者さんは家族がいるから良いが…家族のいない方が亡くなられた場合、飼育していたペットの行き先が心配です。</p>
<p>ペットを飼育できる金があれば、自分の生活（食費など）に使うべきだと思うのですが。</p>
<p>飼い猫の餌にゴキブリが集まる</p>
<p>自分の事を自分でできない人がペットを飼うのはどんなものかと思う。</p>
<p>今だに、生まれたら捨てれば良いと思っている介護者がいる。</p> <p>介護が必要になっている、高齢者は、自分が亡くなった時に、ペットをどうするのか考えておいた方が良い。</p>
<p>1人暮らしのお年寄りが施設入所となる時、「猫が心配でそのままにしては行けない」ということになってしまったこと。</p>

認知症、一人暮らしの方の犬がサービス事業者によく噛みついていたが精神科病院へ入院するにあたり、動物愛護センターの方にひきとってもらった。犬がいることにより、入院や入所がなかなかできなかった。

ネコを多投飼育している家で認定調査をした時に、咳が止まらず苦労しました。

猫も高齢となり、オムツが必要でも、上手に装着できず、猫のお世話をする人が必要だった。

野良猫がその男性の家の車庫に住み着き、子供を産んで多頭飼育になってしまった。その猫たちについて地域からの問い合わせがあり、このままではもっと増えていくことが想像されました。事例会議にも取り上げて、その男性に伝え、矯正手術をしたり、他の飼い主を探したりしてくれました。ペットは存在自体が飼い主の心の癒しであり、それによって話しかけたりして大切なものになります。しかし、飼い主が飼えない状態になると、そのペットはどうなるのかと思うと難しいと思います。

2匹の猫が生きる張りにもなるが、反対に亡くなってしまったら、落ち込みから立ち直れるのか心配。

**「人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業」
連携団体における研修会アンケート 自由記述一覧**

【研修会前】

(2) あなたの立場を教えてください。

→保健・医療・介護・福祉関係者の具体的な職種

看護師 (58 人)	ケアマネジャー (45 人)	介護支援専門員 (35 人)
民生委員 (27 人)	民生児童委員 (23 人)	社会福祉士 (20 人)
保健師 (17 人)	MSW (13 人)	医師 (12 人)
理学療法士 (11 人)	訪問看護 (9 人)	社会福祉協議会 (7 人)
生活支援コーディネーター (4 人)	介護職・ヘルパー (4 人)	介護福祉士 (3 人)
相談支援専門員 (3 人)	医事課職員 (3 人)	事務職員 (3 人)
獣医師 (3 人)	介護士 (2 人)	訪問介護員 (2 人)
介護支援専門員 (ケアマネジャー) (2 人)	事務 (2 人)	作業療法士 (2 人)
臨床検査技師 (2 人)	看護助手 (2 人)	管理栄養士 (2 人)
主任相談支援員 (2 人)	薬剤師 (2 人)	福祉職 (2 人)
臨床研修医	医療職	研修医
歯科医師	看護師・介護支援専門員	リハビリ (大学実習生)
介護施設	介護	介護事務
主任相談支援員 (生活困窮)	CSW	CW
養育支援訪問員	相談員	グループホーム
人権擁護委員	動物・病院	理学療法士学生
事務局次長	主幹	主事
区長		

【研修会后】

(1) この研修で特に理解が深まった内容は何でしたか？

各立場の方々で対応した事例や考え方を出し合えたのはよかった。
地域の現状と課題について
当町には、ペットの困り事の窓口が存在する。
ペット飼育に困った時への対応と相談できる場所が分かった
去勢や相談先、動物に関する知識。そしてその知識不足を実感しました。
いろいろとたくさん問題があるのだと思いました
福祉（人・動物）の方がどのような関わりをしているのか知ることができた
飼育した時のメリットと課題について、課題はある事は把握していたが、認知症の予防等メリットも多くあることを知り、理解を深めることができた。
ペットとの共存
医療・包括関係目線での動物（ペット）の問題・課題を知ることができた。
問題となる前に声をかけて家族と相談するきっかけづくり。くり返し相談。
町内での多頭飼育の問題点を把握した。猫の繁殖力も初めて学んだ。
<ul style="list-style-type: none">・去勢等の助成、相談先・避難所でのペットの対応の仕方
動物の体のちがいが、制度など、知らないことがいっぱいあったことに気付いた。
早期発見の大切さ
日々の業務の中で、問題意識をもち、早期発見につなげる
多頭飼育に対する知識不足
動物に対する飼育、不妊去勢などの知識、情報などの交換は必要
ペット飼育に関する問題点、今後の課題等知ることが出来た
地域で知識・情報の発信の重要性が理解できた
野良猫の繁殖力の再確認
猫の繁殖力
様々な課題を知る事ができた。
猫の繁殖力にビックリしました。
介護予防に効果があるデータがあるのを知れたのは良かった
<ul style="list-style-type: none">・普及啓発として何を伝えていけば良いか・犬と猫の対策の違い
立場が違う方、それぞれの視点について違いがあり、あ、そうか！と思いなおすことができました
多頭飼育への対応の困難さや、対応の方法について異なる多職種が相互に理解、協力して解決する必要性について理解できました。お互いの人間性も高めなければなりません。
動物に関係する者がつながる重要性を感じた。それぞれが一か所だけでは解決しない問題を抱えてしまうとしんどくなってしまふ。
動物の支援者が支援する上での負担（お金、精神的負担）があることを知った。

<p>ペットの終末、預かりのサービスがあることを知りました。ペットも一緒に入所可能な施設や病院もこれから増えていくのではないかと思います。</p>
<p>人の医療の立場で動物の取り扱いについて困っていること。獣医師側からは見えづらいところもあるので。</p>
<p>動物の命の大切さ、地域での関わりなど十分理解できたが、実際は地域で新しい施設などは現実的ではないのではないかと。そもそも、人がいない・・・考えさせられることが多いですね。困った人はそんなことになるとは思っていなかったはず。相談できるシステムを。</p>
<p>自身に何かあった時、ペットたちはどうしたらよいかということを改めて考えるきっかけとなった。</p>
<p>ボランティアさんから直接、福祉の支援者に求めていること、支援者として日頃支援で心掛けていることなど聞くことができとてもよかったです。</p>
<p>ペットの終末、預かりのサービスがあることを知りました。ペットも一緒に入所可能な施設や病院もこれから増えていくのではないかと思います。ボランティアさんから、ペット版あんしん情報キットなどで情報がわかれば引き取り先が見つかりやすいと聞いた。</p>
<p>問題に地域差があること、その中で解決しようと思っている方がいらっしゃる、福祉のみなさまのご努力を理解できました。</p>
<p>動物との共生は必要なこと。考え知識などそれぞれなので連携は大切だと感じました。</p>
<p>地域で動物を見ていくこと。自分は好きだから関わりたいけれど、苦手な方に可能な限り理解していただくことが大切だと思います。</p>
<p>地域にいる野良猫はどのようにすればいいかということ。猫の習性、暮らしから、人間と上手に生きていけるようにするには何が必要なのか理解できた。野良猫、ではなく地域猫としてとらえる大切さを知った</p>
<p>人とペットの関わり、問題が多いことを改めて感じました、特に多頭飼育に関して問題が多い。</p>
<p>飼育のメリット、預ける先、相談先のこと</p>
<p>人生会議に動物も一緒に考えるのも大事。動物は家族であるから、今後についても考えてあげないといけない。情報の共有も大切。</p>
<p>動物を飼うことにはよいこともあるが困った事例も多く、責任をもって最後まで飼うことができるように体制づくりが必要であると感じた</p>
<p>みなさんいろいろと問題を抱えていてとてもよかったです。動物と介護、とても大事なことだと思います。</p>
<p>身近なことから自分に何ができるか考えるきっかけになった。</p>
<p>飼育の良いところ、問題があるところがよくわかりました。</p>
<p>飼育者の覚悟、ペットの情報をきちんと整理し、わかるようにしておくことの大切さ。</p>
<p>高齢者とペットのかかわりの中でのメリット、デメリット。</p>
<p>困ったときの対応方法をいろいろと知ることができた。市内でもいろいろなケースがあり、その対応をしている人の貴重な話を聞くことができた。</p>
<p>自分にもしものことがあったときにペットをどうするのかを考えることの重要性について理解が深まりました。</p>
<p>様々な立場の方が動物問題の解決に対応してくださっていることがわかりました。</p>

山間地域の方が苦情や相談を受ける機会が少ないため、多頭飼育についてもケースが困難化してから対応、ということが多い。そのため、介入時期が重要であり、地域の方、支援者、多くの人たちが考え、かかわることが大切。
高齢者とペットの生活のメリット。多頭飼育の課題、ペット関連のトラブル介入の難しさ。
つらいことが多いボランティア生活の中で『ペットを飼うことでよいこともあるんだ』ということを実体的に知りました。
所長の講義、法律面からの話がよく分かった。最終的に困ったら『保健所へ』との選択肢は理解したが、当然本来であればそこまでの努力はすべき。
ペットに関する問題、ペットに関する法律
ペットを飼う時の法律がこんなにしっかりあるとは思わなかった。今後の対応に使える。ペットについてもう一度考え直す必要があると感じた。
ペットに関する法律
保健所長からの法的な話が参考になった。住民に説明するときに見てわかるパンフレットなどがあると助かると思う。
地域猫の餌やりでも管理者となりうる事例があったと知り、地域猫とのかかわり方について話をするための知識が重要であると気づけた。
犬に関して人間が知っておくべき法律のことが知れてよかった。うちの犬、大切に飼いたいと思った。
ペット引き取りの考え方、殺処分割合など
ペットの問題が多岐にわたること。どう対応したらよいかみな悩むところ、事例や相談先などを共有し関係者と話して対応できると良いと思う。
ペットの責任について
法律の観点から動物のことを知ることができ、勉強になった。情報交換の中で、他機関の経験を聞くことができた。
動物を飼うことは重たいことである。法律がある。飼い主は当然、支援者も知っておかなければならない。多頭飼育など問題を抱えている人、家庭に寄り添いながら気持ちを変えていく取り組みを一人で抱えずみんなで関わる大切。
ペット飼育に関連する法律について知ることができてよかった。
ひとりで抱え込まず相談しやすい環境を作っていきたい。
法律のことを知れてよかった
法律。飼い主の責任を伝えたいこと。飼い主の価値観を大事にしなければならないこと。
法律の話。
ペットを所管する法律を聞かせてもらい、今後の参考になる内容ばかりだった。動産であることなど、飼うにあたり育て続けることができるか、先の先までの将来への対応が大切。
知る機会のなかった法律を学べ、これからの対応への糧となった。早期に仲間に相談していくことが解決の近道と、改めて感じた。
動物の制度的な考え。
ペットを飼う時に事前に考えることが多くあり、重要であることが認識できた
まずは知る！ということ。いろいろな意見が聞けて少しわかった気がします。

<p>ペットの命は人間が責任を持つものであり、命を預かる責任が必要なことを改めて感じた。民法上ペットが所有物であることは知っていたが、遺産相続の対象になることや地域ペットにエサやりをした責任など今後の支援ポイントになる話が聞けて良かった</p>
<p>ペットの問題はとても大きな問題、自分に健康上の問題があった場合だけではなく、大規模災害時にどうするのか、という問題もある。ペットを飼うことは大変だが得られる喜びが多いのも事実、この先も考えていくことが大切</p>
<p>事例を通して多職種で考えると様々な解決策が出た。正解かそうでないかということより、視点が広がったように感じた。こうならないために日頃どうするか、ということも考えることができ、事例検討は有意義と感じた。</p>
<p>ペットについて早い段階から、自分に何かあったときどうするかを考えておくことが重要だと感じた。</p>
<p>いざという時に預けるところがあるという情報を知ることができた。</p>
<p>動物のことを何も知らないことがわかりました</p>
<p>困ったときにどこに頼ればいいのか、困らないためにどうしたらいいのか、いろいろな意見を知ることができてよかった。</p>
<p>動物を取り巻く環境（行政の対応、動物保護施設の状況）</p>
<p>ペットのことを深く考えることがなかったが、今日学んだことを踏まえ、自分ならどうしておくのがいいか、今から考えておく必要があると感じた。ペットを飼うにあたり、十分な責任を持つことが重要だと思う。</p>
<p>様々なアイデアが参考になった、情報収集、対応フロー作成など。</p>
<p>飼育に対し考えるきっかけとなった。山間部や独居老人だけの問題ではなく、私たち自身が主体的に考えていかなければならない問題だとわかった。</p>
<p>自分が入院して飼育が難しくなった場合、どうすべきか考えておくことの重要性。</p>
<p>高齢者にとってペットはいきがいである一方、病気やケガをきっかけに生活が成り立たなくなることがあり、困ってから対応するのではなく、元気なうちから備えることの大切さを学びました。そのためには地域の見守りが大切であることを理解しました。</p>
<p>飼っているペットが理由で入院や施設入所を拒んでいることが実際にあるのだとわかり、そういうペットを預かる施設があるということを知れた。</p>
<p>動物飼育で困っている人が多いということ。お金を払えばサービスが受けられるということ。</p>
<p>地域の中の現状が知れてよかった。なんでも歩み寄りが大切だと感じた。顔の見える関係も大切にしていきたい。</p>
<p>東京ではペットを預けるのに月100万かかることがわかった</p>
<p>保健所、預かる場所、今はいろいろある（知らないだけ）、いろいろな人と連携していくことが大事</p>
<p>動物を飼うにあたっての心得がわかった。</p>
<p>殺処分が減っていること、これは各方面団体の努力による。行政の対応が少し遅れている。</p>
<p>動物に対して無責任なことはできない、動物のその後のことも真剣に考えるべきだということ</p>
<p>D.C.キャッスルを初めて知った。勉強になった。</p>
<p>高齢者がペットを育てる課題について</p>
<p>知らないことが多いのでたくさん情報を得て相談に乗っていくことが大切だとわかりました。</p>

ペットが理由で入院や入所を拒否する人がいることに驚いた。
ペットを飼うにあたり、飼い主だけでなくペットショップ側にも販売に関して責任があることを理解した（ある年齢に達すると購入できない、など）。
ペットを飼う前に知っておかなければならないことがたくさんあると思いました。子供を育てるのと同じ覚悟が必要であると感じました。
ペットを飼ったことがないため、初めてこのような問題があるということを知った。やはりペットに関係なく人とのつながりを持つことは大切だと思った。
地域の中の動物のフォローの取り組みについて詳しく知ることができた。保健所のペット対応についても近況を知ることができた。
リスクマネジメント
ペットの預け先があるということ、全国送迎対応ができること、預け先にも種類があるということ、低所得の方に方法がないわけではなく、相談先があるということ。
入院した際にペットの預かりに関して相談できる機関を知ることができた。ペット飼育のために入院を拒否される患者もいるため、今後相談機関に相談できればと思う。
知っていることの大切さ。制度法律、資源（人、物、金）について知識を、当事者も支援者も持っていることがそれぞれを守ることにつながる。
ペットを飼っている人たちのこれから、将来をどのようにしておけばよいか、どんな準備が必要か、周りの人ともつながりなどいろいろ聞いて勉強になりました。話し合いの中で、今すぐできることと、もっと勉強しないといけないこともある、と思える研修でした。
何かトラブルがあった際の相談先、支援先があるという情報を知ることができてよかったです。
医療関係でペットの問題について考えるネットワークの少なさ。ペットの預かりや世話についての知識不足。行政、地域、企業、団体に一体的に考えていくことの重要さ。
いろいろなサービスがあることを知りました
人間と動物の問題が全国的な課題であることがよく分かった。
動物の窓口をはっきりさせること。地域で人と動物をみること。
この研修が行われる理由と必要な理由
特に入院などの可能性がある高齢者には、入院した時ペットをどうするか、預け先の相談をきちんとしておく。ケアマネジャーとしては、相談先を知ること。
動物ペットに関する窓口や相談のできる機関があることを知った。
ペットを入り口にした人支援という切り口。地域全体でペットや猫による環境問題を考えることの重要性
ペットの問題は大変重要であるにも関わらず、今まで見すごされていたように思う。
問題の課題に対してできそうなことが少し分かった。
猫はものすごいスピードで増えていく。
動物からの感染症の恐ろしさを知った。その他、動物に関する制度も少し知ることができた。
多頭飼育等の問題ばかりに目がいくが、そうではなくて、その飼育者がそうなった背景や動物が好きだという思いに寄り添う、理解しようとする姿勢や視点が大切だと思った。

マダニが増えているので、猫→人に感染するかもしれないなど病気をうつすことも考えないといけない。
動物のことで困ったら、保健所や市環境課
動物支援の進行状況と課題が分かった。
日頃気にしていないペットのこと…ペットについて着目することにより、生活がより改善されるかもしれないというヒントをもらった。
人支援が動物支援につながり、動物支援が人支援につながるんだ!!
開催に向けての導入や目的
飼い主の思いを聞く。指導ではなく共感・信頼関係が重要。
動物に対してどのようにかかわっていけば良いのかがよく分かりました。
人と動物福祉の関係者連携
ケアマネジャーさんが大変困っている現状が分かりました。医療・介護とペットは一見別物と思われがちですが、深く関わっているので、民間と行政がもっとつながりを持ち、連携して取り組んでいく必要があると思いました。
まだまだ困っている現場がありそうですね。
野良猫が増える問題、ペットがいるから入院できない問題等、人とペットの関係は密接でそれぞれの専門家が互いに情報を共有し助け合うことが大切だと思いました。
相談先が無いとの意見にとっても歯がゆく感じました。
福祉関係の方々も動物の多頭飼育等で困っていることが分かった。相談窓口を明確にすることが大事。
ペット問題の具体例
いろいろな問題があることが分かった。
問題はどこのグループも同じ、人物金システムをどうしていくか。これからかな。
課題の共有ができた。話し合うことで、新しいアイデアや、知らない情報が得られた。
不適切飼育が多い。インプットで動物についても現状を詳しく知ることができた。
ペット問題の共有など、知識が深まった
地域での意識を高める
頑張って活動している人が居るが、まだつながっていない。でも少しずつでも進んでいる。
状況把握がある程度できたので、継続的なら活動ができる具体的な活動計画、対策が必要だとわかった。
犬猫のレスキューをされている方の活動一部ですが、知ることができました。行政と手を組んでいければ良いと思います。
猫が増える問題だけではなく、動物を飼育する人にも多くの問題があることを知った。
実際に支援を行っている団体さんの事例をお聞きし、自分が思っていたより、多くの問題・課題があることが分かった。動物にも命があり、それは守らなければならないものであることを改めて感じた。
動物の飼育について知る。周りの飼育状況を知る。
何が問題なのか、以前よりも人に説明できそう。何が問題か、何故進まないか、は動物に対する愛着や興味の差が大きく関係しているのではないかと、と思いました。

多頭飼育、野良猫などペットが適切に飼えない事例がたくさんあることが知れた。そういった問題があることを相談先があること、どちらも理解したうえで、常にアンテナを張って、ペットが困っていたり、ペットで困っている人たちを支援につなげられるといいことが分かった。
地域でのペットを知ることの必要性、色々意見が聞ける
正しい動物飼育を広めるために、啓発活動を展開していくことが重要であること、行政が動物飼育の相談窓口となって、適切な団体につなぐ役割をもつことが重要であること。
平均寿命が延びていること、殺処分が減っていること、猫の繁殖力
医療や介護で動物の問題は決して小さくはないということ。動物に興味がない人には、なかなか理解されない。
困り事を抱えている人の相談先として認知してもらえる様、努力します。
何でも相談、気軽に相談
多くの方が、情報の共有や、地域にいる動物の把握、相談先の明確化を求めていることを確認できました。
人間と動物の福祉には、人や地域とのつながりが重要
本人の背景の理解や多職種連携の重要性が実感できたグループワークでした。
犬の虐待の通報先は警察だと知れた。人福祉・動物福祉の連携の大切さ、重要さを再確認できた。
人も動物も生き方、環境はさまざま一辺とおりで解決できないため、協力して向き合う事が解決につながる。
まず状況をしっかり把握していく、早めに相談対応していく必要があると思いました。
動物を飼う利用は人それぞれある。(孤立、承認欲求など) そんな中、課題・問題が起こった際、そのケースに合わせた支援を検討する他ないが、そのためにも、こうして多機関がつながっていることが大切
1人ではできない事でも、専門の方とつながる事でなんとかなる。
チームで支援することの大切さ
そういった事例に対し、どう対応していいか分からないが、連携することが大事だと思いました。
疎遠になっている家族でも、やはり、つながれるようにしていかなければならない。動物の緊急時は、その道のプロに少しでも早くつなげる。(又、通院代行などもしてもらえることも知りました)
各分野の方々にケースについての視点が色々あって、学びになりました。結局どうすれば良い？どこに向き合わせれば良い？が答えが出なかった。
福祉行政、社協にも見守りにつながる支援システムがあることに気づきました。
ペット飼育者に特化した高齢者サロンというのは良いと思った。ペットを自慢しよう、写真を見せあっておしゃべりしようというところから入り、最後にちょっと話をきいてねという感じで飼い方等の啓発ができると良い。
動物のことと思いきや、背景を考えていくと孤独感などを和らげる地域での対応から入っていかないといけないという気づき
事が生ずる前に把握することが必要ではないか
現場の方々の困りごとの実態がよく分かった
地域の住民理解を深めることも必要である

各課題と動物（猫）のリアル
〇〇医師の取り組みが素晴らしかったです。アドバイスもいただき感謝しております。このような医師が増えることを祈っています。
早めの対応が大切で、色々と相談先があるという事がわかりました。
日南町さんは何か問題が発生しそうなときに多職種連携がすでにできているところがすてきだなと思いました。解決や予防にはやはり連携が大切だということの理解が深まりました。
多頭飼育等困った時の相談場所がわかってよかった。保健所の現状がしれてとても勉強になった。
動物に対しての飼育状況、活動内容。地域の動物飼育の問題（特に高齢者に対して）
各市町村が動物と人との共生の問題がとても深くあるということを知りました。
今までかかわったことがなかったことばかりで、とても深刻なことだと理解できました。
町が取り組んでいることなど十分ではないが理解した。
ペットの適切な飼育について住民への開発や関係者間の共有していくことが重要であると感じた。
書く場所の相談窓口や県内での取り組みが知れました。
保健所の取り組み、各機関の取り組み、実際のケース
他部門の取り組み悩みや工夫
猫の繁殖力の高さ
動物愛護に関する法律や制度、行政や包括などそれぞれの立場での悩みや対応
繁殖の強さ、相談先とその限界、衛生管理の実際
共生センターの存在を知らなかった。
具体的事例をもとにうかがえればもっと深まると思った。
猫や犬も相続するものということで、基本は家族や親族が対応するものだということが理解できた。
県内での状況や、不妊、去勢の事などが良くわかりました。
ペットがいることで訪問系など看護サービスを受けられない状況が生じること
ペットを保護する団体がある
まずこの研究テーマに着目されたことがすばらしい。全て持ち帰らせていただく貴重な内容でありました。
病院のスタッフの方もペットに関する問題についての早めの探知が重要ととらえておられることがわかって良かった。
県の取り組みについて詳しく知ることができた。ペットを取り巻く状況について新たな情報を知ることが重要だと感じた。
保健所等の現状が把握できてよかった。
関係機関の取り組みの詳細
ACP、人生会議の中でも必要な方には確認していかなければならないテーマだと感じた。
独居する高齢者の方がかかえるペットか野良猫の問題は大きなものだと思います。
単身の事例でどう対応すればいいのか、一つの回答を得られてよかった。（どう対応すればいいのか）
保健所の方の具体的対応の方法など聞いてよかったです。
県内における犬猫の収容に係る取り組み状況

医療福祉関係者の方が困っていること 相談先など
ネットワーク、相談先、役割分担
地域の連携、動物に対する理解、寛容ある社会の目標
保健所さんの相談となるとハードルが高いと感じていたが、気軽に相談をと話され心強く感じました。 いろいろな立場の方の話聞くことができ、どのようなことを考えていくことが必要か勉強になりました。 立場によって役割を分担できるので連携できることが大切だと改めて感じました。
情報を共有することが大切だと思いました。どこに相談すればいいのかも理解できました。
多くの知恵、情報を得ることができました。
助成金・現状・地域ネコ
人間と動物の医療福祉について周辺で特に問題も無く、考えることもありませんでした。 何もかも初めて知ることでした。
幅広い地域での動物愛護に関する理解を深めること
地域が抱えるヒトと動物の問題は、簡単に解決出来ないが、相互理解することで、糸口は見つかるかもしれせん。
高齢者のペット飼育問題について
動物に対しての人間の考え方等をみんなで話しあうこと
保健所から話された、地域ネコ、去勢に関する助成のこと
ペットを飼う人が多くなり、その精神的メリット・デメリット。
ペット飼育を始める前に十分考えて飼育することが、ペットの命を大切にすることになる。
65才以上の件。
当病院の現状、地域猫活動。
地域ぐるみでペット問題に対して話し合いが必要。
65才以上は犬、猫飼育をしてはならないことを始めて知る。
人とペットの関係が大切であるという事。責任のあり方とか考えました。
犬を飼っていて、これから先のことが心配になります。
ペットと飼い主の関係。
最後まで世話をする。本人亡き後のことを決める。
実態把握、良い点、良くない点。
飼育を始める前からの、飼育者の覚悟、心構えの重要性について。
動物は最後まで育てていくこと。
高齢者とペットの問題を初めて聞いた。飼っていない者にとっては理解しがたい内容だった。
高齢者等のペット飼育に関する課題について詳しく知ることができた。地域猫活動や助成金の事も初めて知った。
現状と課題。
飼う前にリスクや問題もしっかり考え、最後まで責任を持つことが大切だと思いました。
ペットがいる事で入院や受診をあきらめておられる事。ペットを飼うのも覚悟がいる事。

動物を飼育すること認知症になりにくい。飼育者が病気等になると動物の行き場がなくなり、問題となる。覚悟がないと飼えない。
改めてペット、その他の動物たちが関わる人々に与える影響が大きいことを感じました。又、制度について考えたことが無かったので、参考になりました。
動物（ペット）も家族であるという認識等に支援者と要支援者にズレがあるということがケースを複雑にしている。
他地区でも、ペット問題は発生していた。専門職の方が仕事外で対応する方があり、利用者、ペットに対して良い取り組みをされていると思う。
ペット飼育のメリット、デメリットについて。ペットに関して相談できるシステム。その人の終活内容にペットも加えて話し合っておくことの必要性。
皆様の意見や思いを聞かせて頂く中でペット飼育に関する癒しや運動、介護予防に繋がる良い点や、事情で飼うことが難しくなった時の問題点。また、家族の一員としてとらえ、先々のことをエンディングノートに記載することも必要であるということ。
ペットによる医療拒否が存在することを初めて知った。猫が1年で複数回妊娠することを知った。
多頭飼育崩壊
明確に担当が決まっていないため、その時対応した人に負担が集中しやすい点は改善必要感じた。
ペットの課題メリットが良くわかった。不妊去勢のこと、寿命など知れてよかった。相談や対応の仕方がわかった。
色々な立場や状況は違うかも知れませんが、動物を切り口に地域の人の生活が豊かになるためにどうすれば良いのかを話し合えた事が良かった。
まだまだ課題の支援体制が不十分な点。
ペットに関する問題はまた課題がたくさんあると感じた。相談窓口は保健所ということを知った。困った事例を拾えるのは医療・福祉が身近なため、まず困りごとに“気付く”ということ。
ペットを飼うということについて、メリットとデメリットがあることがわかった。デメリットについては、ある程度予見しながら日々の業務にあたるのが大切だと思った。
事例を各グループワークで話し合い、お互いの意見を聞き自分の思っていたこと、わからないことが聞けた。
保健所の活動について。ペット飼育の効果や課題について。
困った時の相談先がひとつでも理解できた。動物を飼うということのメリット、デメリットが理解できた。
制度について。保健所の方に詳しい内容、アドバイスを聞くことができました。
地域全体で意識を高めていくことが重要であると思いました。
相談先がわかり、情報提供しやすくなった。
現場の悩み、今後の希望。
身の周りでは起きていなくても事例があることがわかり、どこでも発生することだと実感しました。対象者だけでなく、環境や大切にしているものに目を向けることの必要性を感じました。
地域猫活動があること。65才以上がペットを飼う時はヒアリング制度があること。
残されたペットの行き先について。去勢の大切さや飼い主への教育の重要性について。

保健を含め他方面で協力していける人がいることがわかって良かった。また、ペットに関する課題が多くあると改めて感じました。
猫と犬の性質の違いについて。犬は近所に預ける事ができる（変化に対応）。猫は変化に対応できない。それぞれの特性にあった対応が求められるということがわかった。
実際の事例について検討ができた。
各分野で同様の相談、課題を抱えておられることがわかった。
県や保健所が設けている制度について理解できた。
高齢者によるペットの飼育問題について。
ペットを飼育するということは責任もあり、大変なことを改めて感じた。住民としてできること、行政としてできることを考えていかないといけないと思いました。
ペットを通じて様々なメリット、デメリットを知ることができた。
こういった制度があればなど、話し合えたので良かった。
将来を見据えたペットの適正飼育の普及、啓発の重要性。
困ったことがあっても共有することで解決策が見つかることもある。
飼育する本人の介護費の抑制につながる半面で、入院となった場合の問題があることを知りました。ただこれをどうすれば良いかという解決は出てきませんが、今できることをしていけばと思いました。
メリットとデメリットについて。
色々な方との考え等をお聞きし、1つ1つ大切な問題として取り組まれていかれることを願っています。動物のために…。
飼う時の強い気持ちのほかに、もしもの時どうするかもきちんと考えておかないといけないと思いました。今は大丈夫でもいつ何が起こるかわからないため、その後を考えて自助の訓練も必要だと感じました。
当町においては地域の有志による動物愛護の推進があることを知った。
地域猫について。
高齢者が飼うペット問題は永遠のテーマのように思います。
保健所の取り組み。猫は保護しないなど。避妊に助成金が出る。
犬や猫に限らず全ての生き物の殺処分を減らす。
色々な事例を聞くことができた。
地域での取り組み、課題の内容。
糞尿の衛生、ペットによる心の癒し
野良猫の事
対策を考える時が来ている 費用は行政、個体管理はそれぞれで
皆様が本当に犬、猫の糞などで困っている
犬、猫の尿・糞の件
困っている人が多いなあ
猫少なくすること 避妊をする
猫を増やさない

野良猫に対しては不満が多いみたい
野良猫が多くなっている
皆さんが野良猫で困っていることが分かった
猫の糞尿で近所トラブル等みんな同じ事で悩んでいるのだと知れました
医療・福祉の現状
当町では、犬猫糞尿の問題は深刻 避妊して欲しいという意見が多かった
ペットと言うより野良猫の被害が多いことが分かった
糞の始末に困っている = 共通の問題意識を持つことができた 今、猫を増やさない為避妊、去勢がよい
皆さんの困り事が同じだった
糞尿にみんな困っている
犬や猫の尿や糞の被害の意見が多かった 野良猫を増やさない方法
地域猫活動、終生飼養の意識
地域猫活動はノラネコを減らしていく為の活動であること
わからない
地域猫について、活動団体を作る条件
地域猫
さくらネコの意味をしりませんでした、話を聞いているうちに理解できました
さくら猫の事を知った
行政が動きそう
地域猫について
さくら猫プロジェクトについて
行政との関係
ペットのしつけ
犬・ねこの管理方法改正、猫の繁殖力の凄さ
地域猫に関する「さくら猫プロジェクト」について
ノラ猫に皆がこまっている
猫にエサをあげない事
猫を増やさないためにはエサを与えない
ノラネコの対応、地域猫活動団体が必要
地域猫の問題、多頭飼い
島の人たちが猫に関心を持ってもらうことで猫が幸せになると思う
初めて参加しました
地域猫と自分の猫の線引き
地域グループ設置に向けての話ができた
地域猫を立ち上げるにも費用や人員の問題がある
猫の数を少なくするため行政の協力を得られるか？

地域猫対策グループ設立へ向けて検討
地域猫対策グループ設立について
相談窓口が行政にもあるとの事でしたので、今後の業務に役立てたいです。
相談先があることがわかり、今後相談していきたい。
去勢の費用や高齢者の助成がある事を知る事ができて良かった。
ペットについても早期発見、早期対応が大切である。地域で関わることで可能となることを学んだ。
ペット飼育のメリットやデメリット
去勢にかかる費用と地域猫について
多頭飼育崩壊を事前に防ぐには、周囲の早期発見が重要であること。
地域で知識・情報の発信の重要性が理解できた
ペットはヤシだけでなく、認知症や身体状況の低下防止にも役立つこと
犬猫を飼育することのメリットやデメリットを改めて確認することができた。動物愛護の観点から色んな制度があることを知った
飼育のメリットと課題、グループワークの内容について
地域でペットの課題にあっている人がたくさんいることが分かった
終生飼養の重要性
地域で起きている問題について情報共有することができた、ペットがいることもメリット、デメリットについての理解が深まった
飼育する責任飼い主が病気になった際の対応について事前に確認すること、殺処分優先ではない対応に安心しました
ペットがいることで入院を拒否したり、施設入所ができない等の高齢者が増えており、今後ますます問題になってくるので、今のうちからどう対応するか考えておくことの重要性を理解した
困ったときの相談先。民生委員さんとの交流できてよかったです
当町で働き始めて、ペットを飼っている方々がとても多いこと、外でも見かかる機会が多いと感じる。今回学んだことを広めていく必要を感じた。知らない世代、多いのでは…
ペットを飼って困っている人がいることと世話ができないのに手放せない人がいる。ペットに対して行っているSVがあることが分かった(老犬老猫ホーム等)
高齢に方がペットを育てるということ
他の町で実際行っている困難な犬猫の事例が聞けた
厚生センターで出しているペットのチラシを活用していきたい
ペットの人生
飼いペットに関する法律やいろいろサービスは初めて知りました
高齢者が亡くなったり入院になった時のペットの預け先が、こんなに大変なんだと知りました
高齢者がペット等を飼育している場合は、十分何かの時の対策をかんがえておく
ペットとの生活をしている高齢者が多いのかな？
今後あったらいいサービスに、犬猫の預かり

パンフレットで知らせる、自分の体調が悪くなった時等、先のことを見据えペットをどうするか話し合っておく必要があると思った
当町でもペットの問題があることを知り、検討の必要性を感じました
多頭飼育が大変なので、その前に対応が必要。野良猫に餌をやるとどうなるか…という将来のことが伝えやすい
高齢者一人暮らしの方のもしもの時の対応について皆さんの意見、地域で支えられたらなおいいなと思いました
ペットに関する課題を個人の問題とするのではなく、地域での課題として取り組む必要があると感じた
民生委員の現場の意見を聞くことができました。貴重な意見がたくさんあり、パンフレット等参考にしていきたいと思いました
ペットがいないとわからないことが多く聞けた。高齢者がペットを飼うメリット、デメリット
意外にペットを飼っている人が多いのだと分かった
シニア世代がペットと暮らすときの備えが確認できた
お金がかかるなあ〜と思った
終生飼養は知っていたが一人暮らし宅でのペットの飼育も含めてのアドバイス等を行っていく必要性を感じた
野良の対処に光明を感じた、でも難しいですね
ペット問題はテレビで観るだけではなく身近な問題で、いろいろな分野の方々と相談しながら解決に向けていかなければならないなと思った
犬猫の有用にかかる法律
ペットのことでためになりました
ペットに関してたくさんの勉強をさせてもらった（あまりに無知な自分でした）
介護保険サービス提供時にペットのトラブルがあること。
研修前は飼ったことがなく実感あまりなかったがイメージがわきました。現実難しいですね。
TNR活動は知らなかった
課題に感じていることはどの職種にもある
ペットのことについても事前にしっかりと決めておくことが重要
解決の難しさ、何かある前の準備が大切なこと、獣医師の先生の思い
動物かうことで元気になることもあれば困ったこと多々ある
地域での困りごとが想像以上にあった
本日の話しを少しでも良い方向にもっていきたい
困りごとや状況共有
飼育が困難となった方のケアなど現場の方の声がきけて勉強になりました
TNRの活動とか知ることができた
現状の確認、ボランティア的なかわりではなく、明確な事業が必要だと再認識しました。
TNR活動というのを知りました

医療関係者が困っていることをきけてよかった。情報共有できるよう整備していきたい。
現在の困っていること、今ご対応していかなければいけないことがよくわかりました。
動物福祉の現状、収容の問題について理解が深まった。
相談窓口情報提供の必要性
ヘルパーが犬・猫のもの（フード等）の購入ができないこと
いざという時の預け先、相談先について
問題点の共有
高齢者がペットを飼育するうえでの問題点
医療・介護等の方の直面している事例を知ることができた
定まった解決策がないだけに、様々な機関と連携が必要
各機関ともに課題がある現状がよくわかった。
ペット飼育の現状や情報を知ることができた。様々な関係者と話すことで、今後の支援で活かせる情報も聞くことができ、地域での支え合いが重要と理解した。
犬猫に関する情報源が少ない。身近で犬猫に関する悩みを抱えている人が多い。
犬猫を飼う際にかかる費用や地域の中のペットという考え 自治会の中でどうするか、どういことを備えておくか大事と思った
職種に関係なくペットを家族として適性に飼うことの大切さ、主要性を改めて理解した
犬に鑑札注射済票をつけないといけないことを初めて知った。
ペット問題に対して、人と人とのつながりや情報の場の大切さを感じた。
緊急時のペットの預かり先については、各専門職の悩みでもあり、至急で整備が必要と感じた。
入院・死亡で飼えなくなったペットがいる現状
相談先について
人と動物それぞれの生活を守り、健康に生活できるように取り組むことが大切だと思いました。
包括センター、看護・介護に係る方の困っている事例や求めていることを理解できた
1人暮らしの高齢者のペット飼育の難しさ
家族構成だけでなく、ペットがいるかどうかの確認。情報をとることが大事と思った。
グループワークで県の取り組みを知ることができ勉強になった
専門職の方がペットに関して経験したことを共有できた
人動物の共存、これからの地域のシステム作りが具体的になったと思います。
ご近所、地域の交流が大事だと思う
地域でペットの住みやすい街にすることで、人が集まり、活気も出て町おこしになるのではないかと いう点
飼い方側の知識のアップデートは必要であると思いました（TNRの必要性）
地域にいる支援者になりそうな方々の存在
異業種でそれぞれの立場からの意見・考え方が聞くことができよかった。難しい課題であると実感 したし、人とのつながりの重要性を改めて考えさせられた

ペットを飼えなくなった時を考えておくのは重要
訪問介護の際の問題点が把握できた

(5) その他ご意見をご記入ください（今後さらに知りたい内容など）

当事業委員からお話のあったエンディングノートの中身が気になります。動物を飼いはじめる時は、その後、最後まで飼うことができるか、よく考えていただく必要があると感じています。
さまざまな立場から、地域の現状と課題について話し合い、今後どうあるべきかについて考えることができ、とても有意義な研修でした。ありがとうございました。
愛護センターの役割を詳しく知りたい
相談先があれば知りたいです
これまでと異なる視点で患者様にかかわることができそうである
当市や周辺にある対応可能なボランティア等について (相談したり、自宅の清掃等)
普段医療に従事する際、患者様のペット飼育に関してうかがったり考えたりする機会がなかったのでとてもためになりました。ありがとうございました。
様々な情報提供頂き、大変有意義でした。ありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> ・他町村では、災害時の避難にペット可がありました。 ・当町でも早期に検討していただきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・多頭飼育等の問題は福祉関係、医療関係、動物関係との連携が重要 ・このような研修会を継続してほしい
当町でこのような研修会を開催し、素晴らしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換ができる場所があれば良いと思いました。 ・広報や回覧板などで周知してもらうことも必要
動物愛護センターの先生から、犬や猫などの現状などの研修を当町でも開催していただきたいと思いました。
様々な課題を知る事ができました。 研修によって、学びたい事もあります。知識をもつことで守れるものもある事を感じることができた研修でした。
介護予防に重要な効果があるとされているが、高齢になってくると、何かあったときを考えペットを飼うのを控える、という考えが少なくない。何かあったとき、預かってくれる組織があれば飼えるのに、との言葉が印象に残りました。
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営（ペット同伴）について ・避妊手術の相談先 ・ペットに関する相談先全般、どのような所があるのか
高齢者になっていく段階でペットを飼っていくには、こんな常識を知っていくことも大切だと思いました。自分が病気になった時、どうするか。ペットの情報など示しておけるものも必要。
当市の私たちがつながる、情報のプラットフォームがあるといいな。

<p>早く問題に気づくこと、早くに対応を始めること、つまりは大変なことになりそうなことに気づくこと、そうならない対策を地域に浸透させることが重要。動物専門の先生方のお話が聞けて良かったです。一層身近なことを感じるようになりました。</p>
<p>『動物の支援』だから『人の支援』だから、ではなく、必要に応じてつながり、相談し合える関係があることで『動物』にとっても『人』にとっても救われることがあると思いました。支援者間の助けになると思います。</p>
<p>多頭飼育の届け出など、周知する必要があると思いました。ペットのあんしんキットの作成はいいアイデアだと思いました。高齢者とその支援者で、入院などの際のペットの扱いを相談しておくことが大切だと思いました。ペットホテル施設が当市にあることを知り、とても勉強になりました。</p>
<p>考える機会となりました。ありがとうございました。</p>
<p>顔見知りまでにはならなかったが相談できる場所がわかりました。猫に関しては近所の苦情も多いと思う。条例で猫を外に出さないようにしてほしい。犬を飼うときも、ほかの人とも犬がうまく付き合えるようにしつけをすることも大切だと思った。</p>
<p>各相談の窓口のパンフレットを作ってほしい。飼育の講習会など（具体的な飼育方法、困ったときの対応など）を実施できるといい。</p>
<p>具体的に多頭飼育問題などの対応をした人から事例報告を聞いてみたい。</p>
<p>人と動物、医療福祉にまつわる話と各方面の話を知りたい。</p>
<p>参加して、ペットのことも考えられる環境になるとよいと思った。人もペットも必要な情報は同じ事を知った。あまり考えていなかったが、何かできそうなことを見つけられたのが良かったです。</p>
<p>いろいろと面白い話を聞かせていただきました。難しいが皆が同じ方向を向かないと結果は出ず、ペットのためにはならないと思う。</p>
<p>お話を聞いていて、この地域は病院が遠いことも問題だと思いました。車がないと病院に行けないので困っているというご高齢の方もいると思います。動物のことについて相談できる窓口が地域にあるとよいと思いました。</p>
<p>ペット、動物で笑顔が作れることを皆が感じていた。半面、課題を解決するには、地域全体で考えることが必要と思います。</p>
<p>いろいろな意見を聞けて参考となりました。ありがとうございました。</p>
<p>地域全体のかかわりをもっと増やしていけるシステムなどがあると良いと思いました。</p>
<p>やはり日頃の関係づくり。隣人、親戚、特定の善意ある人にすべての負担をかけないように制度相談先があるといい。</p>
<p>野良猫の件で役所（保健所）に相談したところ、最終的にはボランティアに相談した。</p>
<p>行政、民間での取り組み活動についてもっと具体的に知りたい。</p>
<p>相談先のリストがあるといいですね。</p>
<p>獣医さんとボランティアさんの話が聞けて良かった。ペットを飼う責任について考えさせられました。ありがとうございました。ペットの里親さんとのマッチング、大変な仕事をされていると感じました。</p>
<p>犬に対しては登録したり狂犬病の注射があったり手厚い。猫は登録するわけでもなく、予防接種も知られていない。『地域猫』もあるが知っている人、知らない人さまざま、猫にも手厚くなるといい。</p>

<p>他都市の事例についてもっと知りたいと思いました。他都市の事例を知ることによって地域の良い支援方法の発見につながるのでは。</p>
<p>連携することで早期に飼い主さんの負担も少なく、解決につながる。連絡網のようなものがあるとよい。ペットを飼うことで動物にエサを与えることの責任を、子供のころから学んでほしい（学校で教えてほしい）。</p>
<p>判断能力が低い高齢、障がいの方のペットの対応したケース。どこから相談が入り、どのような対応をし、解決に至ったのか、また現在も苦慮されているのか、事例を通して学んでみたいです。</p>
<p>高齢者とペットの共生について問題意識を持つ良いきっかけの会となりました。どうしてもメジャーなペット（犬、猫）が中心となりますが、マイナーペットの世話で困るケースもあるのではないのでしょうか。</p>
<p>地域が異なっても問題は共通しています。問題を共有する中で解決の道を見つけて行けたら良いですね。</p>
<p>このテーマで初めて話せる場があり、勉強になった。重要だと思う。法律面も学べた。地域猫にエサをあげるならトイレも準備、責任を持つことの周知が大事。ボランティア団体に参加していても本人にはそこまで意識していない場合もある、考えさせられた。価値観の違いをそろえるのは難しいけれど、知ったこと（責任管理）を広めることはできるかなと思った。</p>
<p>それぞれの立場からの課題がわかった。自身も猫2匹飼育、動物が好き、楽しく参加できた。ペットの今後を考えるように促すことなど、やっていきたい。</p>
<p>さらに細かい事例があると掘り下げやすいと思う。</p>
<p>いろいろな人とつながれるネットワークが作れると良い。</p>
<p>相談先をわかるようにしておきたい。</p>
<p>動物ボランティアなど、相談先があらかじめわかっていると相談しやすい</p>
<p>実際に地域での問題となったケースへの対応例を聞きたい。</p>
<p>こうした研修を広く多くの方が受けるべきだと思う。</p>
<p>支援者が対応する際の根拠となる話が聞けて良かった。事業所や関係機関へ伝達していきたい。</p>
<p>各現場の困りごとを教えてください。</p>
<p>町の安定のためにも大切。近所の方々との折り合いが悪くなるので。</p>
<p>動物の問題は人の問題でもあるので、広く見極めて必要な人につなげる、共に対応することを多職種で共有ができてよかった。</p>
<p>他の職場の方と連携を取りながら対応していきたいと思うので、また何かあれば参加したいと思った。</p>
<p>地域で思っている解決方法と、実際の対応の方法に差があると支援者としては大変になってしまうと感じている。</p>
<p>ありがとうございました。</p>
<p>高齢などを理由にペットを飼育する権利を奪うのはひどいことだと思うが、ペットの幸せを考えてあげることも大切。今回民間サービスとしてペットを預ける制度があることを知ったが、富裕層しかペットを飼育することができないような制度が必要だと思う。ただ、ペットの飼育に税金を使用するかどうかは大きな問題だと思う。</p>

<p>このような研修を開催いただくことで、地域をよくする取り組みにつながると思います。いろいろな意見を聞くことは大切だと思いました。</p>
<p>動物団体についてまとめてある資料等があれば、より困っている人に提供できると思った。</p>
<p>自分はペットを飼う予定はないが、困っている人に伝えていきたい。</p>
<p>飼い始める時が一番大切。チェックリストがあると心構えにもなる。</p>
<p>実際のケースを話し合うことでいろいろな意見が出てよかった。前向きな意見がたくさん出てワクワクしました。地域にあったらよい施設や団体、サービスなどあれば専門の人に聞きたい。</p>
<p>犬・猫以外の課題と対応策を知りたい。</p>
<p>多職種の方と一緒に考える時間がとても良かったです。責任を持ち、ペットのことを考え、今後に生かしていきたいと思います。楽しかった。</p>
<p>いろいろ話があったけれど、この地域で一人でペットを飼うのは難しいと思った。</p>
<p>今の私に何ができるのか・・・</p>
<p>知らなかったことがたくさんあり、とても有意義な時間でした。</p>
<p>医療、介護職として、どの段階でどのようにかかわることが望ましいか、より実践的に知りたいと感じました。</p>
<p>『無知は罪』という言葉があるように、今まで何も知らなかったのでこのような研修でみんなで話し合いをして、こうすればいいんだとわかり、勉強になった。</p>
<p>『みんなでペットを飼う』案、いいなと思った。</p>
<p>ペット版 ACP は欲しいですね。自治会へ伝える機会もあるといいですね。</p>
<p>動物を保護するための手順を知りたい。</p>
<p>多職種と話ができ、地域で困っていることをたくさん聞くことができよかった。ペットについて考えたことがなかったが、動物が生活の一部となっている人がいることを思うと、しっかり知識としておかなければと思った。</p>
<p>地域住民とも勉強をしていきたい内容だと思いました。</p>
<p>ペットも多様化している。今まではあまり表面化してなかったが、今後はもっと問題が表面化してくる可能性もある。自分には関係ないとは思わずに考えていきたい。</p>
<p>相談できる人が身近にいるということがわかっていなかった。</p>
<p>今回のような事例に対して、どのような予防策、解決策があるのか知りたい。</p>
<p>ペットによる高齢者への効能の高さを大切に、高齢になってもペットと生活できる社会づくりをしたいと思う。</p>
<p>楽しかったです</p>
<p>ペットのことにに関して国がどの程度お金を出しているのか、どうしてもボランティアをあてにしてしまう、人の良心に頼ることはよくないのでボランティアを減らせたらいいなと思った。</p>
<p>とても面白い取り組みだと思う。中山間地だから難しいこともあると思いますが、ペットボランティア、ペットヘルパー、入院者等対応ネットワークの構築など、先進的な取り組みにチャレンジして下さるとうれしい。可能な範囲で協力させていただきます。</p>
<p>研修で預かりボランティアやペットヘルパーがあることを知りました。ネットワークなどもあるのかな、調べてみたいです。</p>

<p>情報や支援先の一覧が住民に配布されると良いと思いました。このようなあまり知られていないことの研修があると大変勉強になります。</p>
<p>支援する側の情報量を増やしてネットワーク作りがこれから先重要になっていくのではないかと感じました。できそうなことが少しずつ増えてきているように感じました。</p>
<p>日々の生活の中で、人生会議、緊急時対応をペットも含めて共に考えていく必要があると感じました。</p>
<p>地域課題として、人福祉、動物福祉の支援者が共通の知識を持ち情報交換ができる機会があり、とても良いことだと思いました。今後も意見交換がますます活発になって、当市で人も動物も幸せになっていけると良いと思います。</p>
<p>窓口、手順をはっきりさせたい</p>
<p>人間と動物の関係性が知れてよかった。まったく動物を飼うことに関心が無かったが、少し関心を持てるようになったし、問題点や改善策を聞くことができてよかった。</p>
<p>不幸なペットを少しでも減らせる。人間とペットのより良い生活ができるよう、地域や行政が共有できると良いと思います。さらに、手術や捕獲に対しても助成がしてもらえるよう皆さんで考えたいと思います。</p>
<p>飼育されているペットの支援、その飼い主支援のポイント</p>
<p>グループワークでの動物病院の先生のお話は、やはり具体的でもっと話が聞ければと思いました。</p>
<p>動物側の支援者の方がと直接顔を合わせることができて良かったです。</p>
<p>何かペットのことで問題など起きた時に相談できる先が分かったのが良かった。(グループワークでは) ともってお話がしやすく、いろいろと教えてくださいました。</p>
<p>支援制度について</p>
<p>どうしたら当市も先進地域のような活動ができるのか</p>
<p>日常的に犬や猫を見ることが多く。やせたフラフラの猫なども見かけるが、助けてあげたいがどう対応したら良いのか分からない。例えば地域のごみ集積場所に QR コードを貼り付けて、SNS などで情報提供をできるようにするなど、情報の拡散が必要だと思った。</p>
<p>ペット問題なんてあるのだろうか？という思いで研修に参加させていただきましたが、具体的に振り返ってみて、あれもこれもと自分自身の中にいろいろ問題があったことに気づかされました。ありがとうございました。</p>
<p>グループワークがとっても良かった。動物支援の方や市役所の方など立場が違う方の声が直接聞いたのは良かった。</p>
<p>(動物保護) 活動に携わっている方から貴重な話が聞けてとても良い時間でした。相談先と、指導ではなく一緒に解決していこうということが大切だということを知ることができた。</p>
<p>ペットを飼う人は、ペットの種類別の飼育方法を学んで、試験に合格してから飼うべきだと思った。</p>
<p>ペットに関して知らないことが多かったので、ペットを飼っていてどういうことが起こる心配があるか、何か困った時の連絡先など分かりやすいチラシがあると説明しやすいと思いました。</p>
<p>活動費を個人で負担されている方に、補助金制度や介護が必要な方のペット問題にも助成金など将来的に当市で制定されると良いですね。ペットの避妊手術の助成をされている市町村もあります。当市でも望みます。</p>
<p>困っているお宅(増えている)へ早めに訪問して、増えないためのお手伝いがしたいです。</p>

<p>いろいろな地域で活動していますが、問題はどこの地域も一緒ですね。命は大切だとの思いがどんどん広がれば良いなと思いました。</p>
<p>適正飼育について、地域猫について、自分に何かあった時に飼育を引き継いでくれる人を決めておくことなど、チラシを回覧板で回せると良い。動物に興味が無い人、嫌いな人、不適正飼育であると気づいていない人にも届くようにしたい。</p>
<p>地域包括支援センターで対応した事例、動物愛護団体の方の話聞くだけでも勉強になると思います。</p>
<p>自分がペットを飼いたいと考えるとき、自分が病気や入院で世話ができなくなることを思うと手が出せないで残念に思う。預かりボランティアをするのもいいかな。</p>
<p>ペットと生活したいと思っても年や周りのサポートがない場合、結局受け入れ不可となるのか。分かったけど、どう進めればいいのか、まだ分からない。</p>
<p>熊本県が殺処分ゼロと聞いたので、どうやっているのか知りたい。</p>
<p>いろんな関係の方と話し合いができる機会がもてて良かったです。ありがとうございました。ペットの一時預かり、ボランティア、地域の関係づくりになると良い。</p>
<p>子供のうちから、捨て猫などをみたら、どうなるかなど、知識を教えていく必要があると思いました（早い段階なら、増やさず殺処分せずに済む）</p>
<p>動物に対する接し方や価値観は人それぞれ違うので、統一することは難しいかもしれないが、何かあった時に、知っている人が相談・支援できるよう、こうして関係者同士で繋がりをもっておくことが重要だと思いました。</p>
<p>グループワークの中で、精神障害の人も高齢者と同じくらいいるという話がありました。特に支援から外れた人（自ら拒否した人）に問題が起きやすいということでした。その事実を行政としても認識すべきだと思います。</p>
<p>発表の中で、学校の授業で動物福祉を取り入れるとか、サポーター作りなどのアイデアが知ることができました。実現できるといいなと思いました。</p>
<p>責任をだれが持つかが大切だと思いました。</p>
<p>動物支援者と一緒に話し合える場なんてほかにはない！！素晴らしい場ができて、誇らしいです。こういう場が続くといいな。</p>
<p>このような研修は大変役に立って、知識も広がるので、行政があまりかたくなるしくないような講習会を開いて地域の人たちにわかりやすいように、（特に高齢者）話をしてもらおう機会や、場所を作ってもらえれば良いかと思います。</p>
<p>不適切飼育の事例とその解決策を知りたい</p>
<p>動物包括支援センター！いいですね。県北西部地域医療センター国保白鳥病院はペット同行入院 ok とのこと、good！</p>
<p>人と動物の福祉を連携させることの重要性、そして、動物の福祉に携わる人がそれを仕事として、出来ていくと地域としてもプラスになると思いました。ペット同伴型の入院施設 ぜひ！！移住にも繋がると思っています。ペットと終生は飼い主さんの夢です。</p>
<p>動物の包括支援センターというのはおもしろいと思った。今までは人の包括支援の中の1部門に動物もあったらいいと思っていたが「動物の包括支援センター」と掲げた方が、相談する人はわかりやすいかもと思った。</p>

この研修を継続して、具体化出来るといいです。ただ、毎年やらないと風化すると思います。
日本は動物福祉に対する認識が遅れていて、ペットを飼う人への飼い方講習等がないため、悲惨な状況となるペット、そして飼い主が存在するのではないかと思う。
相談窓口が知りたい
ボランティアでは今後の活動が継続困難。地域や国での対応が必須
色々なケースがあると思います。どんな対応をされているかなど聞いてみたいです。
いろんな知見や視点を共有することができ、大変参考になりました。
その家ごとにアプローチの方法が色々あるので、どれが正解などはないと思いますが、支援者が1人で立ち向かって解決はできないと思うので、チームでの取り組みが大切だと思いました。
もっと色々な事例が知れたらうれしいです。
研修を受ける前と後では仕事のし方が変わったと思います。
この研修で、猫や犬が訪問先にいるかなど、目を向けていく自分があり、捨て猫を飼っている方を知ったり、見つけたりしました。いい方向につなげていきたいです。
医療・福祉・動物愛護（福祉）連携がとっても重要！研修続けるべきだと思います。
問題例へのアプローチ方法、支援方法、犬猫の行先を地域で支える方法、問題の吸い上げ方の工夫
福祉関係機関、資格によってできることなど複雑なので、動物に関する相談先もそうだが、人の福祉の相談先もわかりやすい一覧などがあると良い。
つながりを大事にしたいです。
大変勉強になりました。ありがとうございました。ペット関係の社会資源が増えれば良いと思います。
表面化していない問題を早期に探知し、支援すること事態が深刻化する前に解決することにつながる感じた。このような連携はとても有意義だと感じた。
現場で困っておられる方、餌やりの対応をされた方、日頃大変苦勞されていることがわかりました。こういった情報交換や共有は大切だと思いますので引き続きできればいいなと思いました。
動物に関する取り組みのより具体的内容→担当者が理解し知識を持つことがより地域での活動をスムーズにすると考える。
一時預かり等の施設の補助制度、金銭面だけでなく様々な知識や講習会の開催補助等、勉強会
多頭飼いに集中したが、ペット（家族として）離れがたい事、責任とモラル向上を草の根運動として行くことが必要だと感じます。
今後ペットと一緒に入院出来たり、施設入所出来たりする施設ができたいいと強く思いました。
多頭飼いの人をどうやって説得したのか事例があれば知りたいです。とても勉強になりました。ありがとうございました。
病院、保健所など様々な視点がわかり良かった。いろんな分野の意見、困っている点をもっとわかるとよいと思った。どう支援していくのが良いのか
動物に関わる制度や仕組みについて知らないことが多すぎました。まずは現状の制度など基本的なところから学べる機会があってもよいと思います。保健所の方藤井先生の講義も受けてみたいです。
西部での勉強会も楽しみにしています。つながりの機会をありがとうございました。

<p>様々な立場の方と情報共有できたり、課題認識することがやはり大切だと感じました。顔が見えると相談しやすくなることが多いので現場だけで抱えることなくみんなで考えることが大切だと思います。</p>
<p>ペットも一緒に泊まれる病院があるとよいと思いました。</p>
<p>小さい時より動物がいた環境でした。今も飼育しています。カフェであったり、宿泊施設でもペット同伴が多くなってきましたが、ペットと一緒に入院できる病院、受診できる環境や一緒に勤務できればと思います。</p>
<p>いろいろ考えさせられました。とても難しい事だとわかりました。</p>
<p>困ったときなど相談できる場所があるという事が知れてよかった。当町では、そういうところがないと思っていたのでびっくりしました。他の町のように当市ももっともっと情報を発信してほしい。まずは知ることから始まると思います。</p>
<p>知らないが多かったのでもともと勉強になりました。まずは私たちが知る事、住民さんにも知ってもらいたい考えてもらうことが重要だと認識しました。ありがとうございました。</p>
<p>病院と当町役場だけの研修会と思ったら、大規模でおどろきました。</p>
<p>他の市町の取り組み。支援している内容など知りたい</p>
<p>業務のため途中退室</p>
<p>コネクトラインの構築方法</p>
<p>困っている人が多いことがわかりました。この研修会を広くやってもらいたいと思いました。次は事例検討など</p>
<p>市町村ごとの取り組み 相談経路の見える化</p>
<p>当県内のサービスについて</p>
<p>野良猫をつかまえて手術を使用と思ってもなかなかつかまらないので出来ない。</p>
<p>高齢者が入院、入所するあたり飼っているペットをどのように保護し、飼い主が安心して入院や入所できるのか</p>
<p>独居や身寄りのないケースのペット問題、どのように支援したり介入したのか具体的な事例が知りたい。中部や東部でもこのような研修があるとよい</p>
<p>事例に対する具体的な対応策が効くことができてよかった。保健所さんのアドバイスを得られるのは大きいと感じた。</p>
<p>知らなかったことを知れたことは良かったです。(関係機関の取り組みなど) 課題解決に向けたヒントがあまり得られませんでした。「独居(身寄りのない人) 高齢者が急に入院となった時の対応」や「それに備えて元気なうちから取り組んでおくべきこと」など、具体的なトピックを絞った話が聞きたいし、意見交換などもっとしたかったです。</p>
<p>ペットを含めた ACP を普段から考える機会を提供できる仕組みづくりについてなど→具体的なアクションプランについて協議したい</p>
<p>ネコ屋敷の人は障害があったり支援者が少なかったり介入が困難な場合の対応方法を知りたい。</p>
<p>具体的な入院等による飼えなくなった際の取り組み事例</p>
<p>ペット 様々なケース(問題)についての「明確化」として皆が助かります。</p>

ペットがいるから入院、入所できない事例を聞いていましたが、ペットが入院の原因を作る、病気で入院した事例、その支援、生活課題もあるでしょうか。
他のペットはどう対策するか？
とても勉強になりました。ありがとうございました。
次年度も引き続きよろしくお願いします。
ケアの幅が広がりました。
今までペットを飼うことのデメリットばかりに目が行っていたが、「福祉」という観点において、メリットも多くあるということが再認識できて良かった。
どのようなネットワーク、仕組み作りをすると、ヒトと動物が幸せに共生できるかを考えるきっかけになりました。
動物が好きな人も嫌いな人も、お互い気持ちよく過ごせるような社会になるといいな、と思います。
今回の研修は大変勉強になりました。今後重要なテーマだと感じました。引き続き機会があれば参加したいと思います。
実は3日前にこの事例の様な話がありました。早く組織化が進むことを願っています。
助成金の充実。
町内あるいは地域内での事例報告。これまでどの様に対応してきたのか、またはこれまで無かったのか。
年をとってから「犬、猫」どちらが良いのか？
ペットの飼育家庭が何戸あるか知りたい。犬、猫あるいは両方、また他のペット飼育。
難しい問題が多い。
町内相談所。
当町のペットの頭数把握はできていますか。当町内で発生している問題が現実的にありますか。以前地域猫活動を数人で行っていましたが、エネルギーも時間も必要で少し息切れをして…、途中でストップしました。
犬や猫を自由に飼えないということがわかった。65才以上の方が飼う場合、後見人が必要だとは思わなかった。
まずは現状を知ることからで、今後良い形になっていけば良いと思います。
捨て猫の事になるが、空き家が多ければ住みつき数が増える。庭に侵入する等、困り事相談を受けるが、町、保健所に相談してもなかなかうまくいかず大きな組織で問題解決に向けて進めて欲しい。動物を飼う時は慎重に色々先の事を考えて欲しい。
ペットを飼うには家族との相談が必要だと痛感した。
ペットは65才以上は飼うことができないということを初めて知りました。どんどん状況が変化していて、その都度知っていくことが必要だと思いました。動物を飼う前にもっと説明してもらう必要があると思います。
実際に参加された方々のエピソードや行ったサービス調整など、具体例を踏まえてお話が聞けたので良かったです。ペットは家族の一員とは考えていましたが、飼い主が家を離れたり、亡くなったりという所まで考えることはなかったので、考える機会となりました。色々な視点から、地域の課題も抽出していく形を見る事ができました。ありがとうございました。

<p>地域猫は知っている。地域での取り組みが、どこまで理解されているのか？不安な面もある。野良犬は少ない、ほとんど見ない。自分よりペットの方が長生きすると思えば、悲しく思える。忠犬ハチ公のように主人を待って最後を迎えるようになるのかと思う。</p>
<p>行政にペットを飼う際の規制があれば知りたい。</p>
<p>法的にどこまで強く対応できるか気になりました。</p>
<p>当事者の問題意識がないと思われるケースもあるが、どうしたら良いかわからないから放置しておくしかないと思われ、早めに情報提供が必要だと思う。</p>
<p>地域住民さんにも認識が必要と感じた。医療・福祉関係者も相談窓口を知らない人もいたので啓発活動が必要と感じました。</p>
<p>保健所の地域猫活動をもう少し使い易いものにしたら良いと思う。要領をみていると地域の意味が合わないと感じる場合もある。</p>
<p>動物だけでなく、地域の課題についてももう少し意見交換が出来たら良いと思う。</p>
<p>おもしろい、そして切実なテーマに着目されて、勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>住民に近い立場である社協の方や役場の方が様々な事例に対応していることが良くわかった。</p>
<p>具体的な心あたまる事例等の導入があっても良いと思いました。</p>
<p>地域の課題をみつけやすいポジションにいる医療職の皆さんと協力して住みやすい地域にしていけたらと思います。</p>
<p>動物についての課題を多くの人と共有し、少しでも人も動物も幸せな生き方ができる世の中にしていくために、当県内にこのような研修会が開催されると良いと思った。行政も動物の医療福祉についてもっと積極的に取り組んでいってもらえると課題に取り組みやすくなると思う。</p>
<p>多頭飼育現場(単身高齢者宅)に直面した際、誰がそれぞれ何をするのかを日頃から決めておいた方が良いと思いました。</p>
<p>こうした研修会が広まっていくと良いと思いました。</p>
<p>次回の研修会にも参加したい。大災害への対応も考えていきたい。</p>
<p>次回がもしあれば、地域の方なども参加できれば良いと思う。</p>
<p>実際、入院などをしてペットが問題になった場合にどのように対応されているのか、良い面、悪い面含めて事例を聞きたいです。</p>
<p>行政としては不幸なペットが発生しないよう情報発信を行い、人とペットをつなげていきたいと思えます。</p>
<p>1部屋に多くのグループが話し合うため、声が聞き取れなかった。</p>
<p>この内容を地域の方、今まさに動物を飼育されている方やこれから飼いたいという方にぜひ聞いていただきたいと思いました。皆さんに聞いていただいて少しでも理解していただけてからがスタートだと感じました。ありがとうございました。</p>
<p>人間と動物のことについては、様々な問題、課題があり社会教育活動の視点からもとても重要だと考えます。人間と動物医療福祉×社会教育で地域をどんどん巻き込んでいけたらと思います。自分にもできることをやっていきたいと思えます。</p>
<p>結論が出ない問題だと思う。</p>
<p>なかなか結論の出ない問題だと思う。何度も話し合うことが重要だと思います。</p>

65 才以上で年齢のためペットが飼えないとあきらめている方がおられるが、保証人？引き取れる方がいれば飼うことができることがわかったので、癒しや認知症予防、生活リズムの確立などの目的で高齢者も負担なくペットが飼うことができるサービスを作っていけると良いと思う。例えば、レンタルやマッチングアプリ。
より多くの方にこの研修に参加してもらいたい。とても良い研修でした。猫の登録制度を導入してもらいたい。
動物に関する問題は、問題が大きくなるとわからないことが多く、地域の中で早期に探知ができるように情報共有できる仕組みがどんどん広がれば良いと感じました。災害時の備えとしても、地域でのネットワークの大切さがよくわかりました。
ペット飼育を理由にした入院・入所拒否の当町での状況を知りたい。課題はわかるが対策が難しいと思った。
行政に頑張ってもらう（特に環境衛生課）
今後は村民で考え、長期の対策を
去勢と避妊相談の窓口が欲しい
犬、猫の不満が大体同じだった
野良猫はどのくらいいるのかな？
猫少なくすること
役場の対応に興味あり
動物に対しての責任
動物愛護センターは保健所の管轄施設だが、殺処分はしていないのか？（ネットで調べても出てこなかった）
猫について肯定的意見もあった
被害相談窓口がわからない 猫は登録制度がない為、ペットとの区別がつかない
この研修の進み具合を知りたい
猫に対しての考え方が変わってきました
野良猫にエサをあげるのは無責任なこと？悩みます。もっと動物のことを知りたいです
話を聞いているうち現状が見えてよかったです。高齢者の発表する姿もきけてよかったです
行政が関わった上で主体で動くのは地域の人だと助言をいただいたが、その「動ける人」が何人いるのか知りたい（高齢、運転できない、毎日のエサやりは仕事があるので難しい）
有難う御座いました
ペットの飼主の教育が必要だと思う。猫を家や土地から外に出さないことが大事か？
現在、多頭飼育になっているネコをどうすればいいのか相談をする場所を作ってほしい
地域猫活動団体を作る時どんな人に協力してもらえるか？
相談窓口が身近にない。村の問題として不妊・去勢などの費用負担を行政が負担。
声掛けと啓発と広報あるのみ
多頭飼いの人を引っ張り込むこと
多頭飼育が避妊か去勢をすることが非常に難しいような気がする。

費用面は村の問題として考え、行政が負担
多頭飼育問題を解決するには動物行政と医療福祉関係との連携が不可欠。ぜひこの研修会を続けて欲しい。
保険外のサービスも知りたい。
早期発見、情報提供が必要との事で今後に生かしていきたいです。
ペットの預かりボランティア団体がないのかななどの情報
研修で出た案に対しての返答
魚類や虫類の対応についても知りたい、相談できる場所を知るとは支援者の安心にもつながると思いました
災害時の相談先、民生委員さんとの交流できてよかったです
必要な情報が載ったパンフレット、ぜひ作ってほしいです
ペットはかわいいけど終生飼養
ペット信託について知りたい
自分が経験したり想像したりできないことを知るきっかけになりました。個々の事例への対応は難しいですが、ここに相談したら大丈夫と思えるサービスや支援先が住民だけでなく、介護、福祉職の方にも周知されるとよいなと思いました
野良猫の対策に国がもっと支援する
地域猫用の餌支援、猫砂、ベッドの支援がしやすいように啓もうするようにしてほしい、猫のフードバンクが欲しい。保護猫を欲しい人のリストも作ってほしい、ミルクボランティアも含め、ボランティアできる人を集める
高齢者の死後対応の中に、ペットのこともあればよいと思いました
ペットを飼育している方を訪問するときに、今日学んだことを活かしてペットのことについても話題にしたいと思いました
人間も動物も待遇は一緒であるべきだが、実際は動物というだけで冷遇されているし、行政もあいまいに書かれている
楽しみを与えるために安易にペット（生き物）を進めるのも考えものだという思いがしました
不妊去勢手術をしている猫は耳に印があることを知った。「ペットと暮らすシニア世代の皆様へのお願い」のパンフレットの配布
昔小学生の頃、犬猫が放し飼いにしており、今はないが家族には吠えないが他人には吠える。散歩時のリードの長さを2m以内でお願いします
充実した時間でした
具体的なプラン案 1.当院でペット支援サービスとして問診票で来院患者の把握→SW、CMによるペット支援計画の提示を無料～2万程です。2.引き受け支援（出口の幅を広げる）3.イベントを開催し後見人や虚勢のスクリーニングへ繋げる。
現場で活躍されている方々の現状の困り事が把握できるいい機会になったと思います。
ペットの引き取り先の相談にのってくれるところ、まずどうにかという所が分かれば嬉しい。県とか市とか行政で担当してくれる部署があれば。

ペットで困った時にどこに相談したらよいか知りたい
他県、田舎や都会でのとりくみなど。長期的に飼えなくなった場合の事例。
解決するのは難しい問題だと改めて思った
相談先を少しでも増やしたい、地域ネットワークづくり
困った時の対応先が増えていくことが重要
相談先一覧、費用知りたい、動物の飼い方や殺処分しないための広報活動
今回はスタッフと一緒に参加させていただきます
今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。ペットの課題について理解を深めて地域と連携して問題解決をはかりたいです
相談先がまずあればいい。相談先は必要だと思う。教育を通じて関心と責任感を育てていくこと重要だと思います。ピンチの時に短期間なら散歩、エサやりの代行してくれる人とかをコーディネートしてくれる人がいたらいいと思う。
相談できる窓口の確立が早急に必要だと思います。また周知することも必要です。
相談先を知らない高齢者に対してどのような形で周知していくか学びたい。
これまで支援を行う中でまだペット関連の困った事例に直面したことはなくポジティブな事例（話題で盛り上がる、ペットのためにリハビリをがんばるなど）が多かったため、院内外の方のいい話を直接聞けなかつたのできれいなごときだけではすまない現場のことを少し知ることができた気がします。自分自身もし今入院して頼れる人がいないとなるとその時ペットはどうなるのか、全然考えたことがなかったです。普段とは違う視点で色々考え患者支援するうえで新たな学びとなりました。
保護先のリスト
ペットホテル等の費用や条件
このような研修を重ねることで、何か地域でできることを実現できるといいなと感じた。
人間の医療や介護が充実していくなか、身近な犬猫への医療や介護面が不十分だなと感じた。情報源が人間に比べて少ないので、もう少し充実頂けたらいいなと思う。動物が嫌いな人にとってはどうしてもいい問題なのかもしれないが、家族の一員と思っている側からしたらどうにかして欲しいことが多いと思う。
他県や田舎と都会の状況
相談できる場について知りたい。ACPで動物についてあげることが重要だと思った。
意見を出し合うのが難しく、問題はたくさん出てくるけど、どうしていくのが良いか難しい課題だと思った。退院支援を行う中で、ペットを飼っている患者も多いため考えていくべき問題だと改めて感じた。
返還？逸走？等わからない言葉・専門用語なじみがない言葉があった。
犬が認知症の予防になるならグループホームなどで引き取りをお願いできないか、施設での引き取りが可能か、セラピードック等
行き場のないペットの行き先を見つけることの問題は？

<p>正しい飼い方やペットに関するマナーが知識として行き渡っていることから、様々な弊害が起こっていると感じます。</p>
<p>後手の対策をいろいろ考えるよりも、教育現場から発信することも重要</p>
<p>各地域にペットがどれくらいいるのかを把握したいです。国勢調査のように動物の数を調べたら必要なサービスもその地域ごとにわかりやすくなっていきそう</p>
<p>ペットは所有権があり、第三者が介入しづらい問題です。地域での関係性が希薄な時代になりましたので、支援してくれる窓口の公表、専門職同士の協力、顔の見える関係作りが必要であると痛感しました。</p>
<p>ペットの問題はむずかしいと思っていたけれど、グループワークをしてみると、できることが多くあることがわかりました。とてもよい研修でした。</p>
<p>社会資源について知りたい（自分自身が情報提供できるように）</p>
<p>この会の中で出たあったらいいなの1つでも実現できることを希望します。</p>